

「自立援助ホームのニーズに関する  
神奈川県内児童相談所へのアンケート調査」  
報告書

令和元年（2019年）8月

神奈川県自立援助ホーム連絡会 / 自立援助ホームNEXT

## 目次

目次	2
I. アンケートの実施内容	3
1. 調査の概要	3
2. 回答者に関する基礎項目の集計	4
1) 回答者に関する状況	4
3. 自立援助ホームのニーズに関する項目の集計	6
1) 自立援助ホームに関する概要	6
2) 自立援助ホームの機能について（現状と今後の期待）	14
3) 自立援助ホームの機能について、記載項目以外に今後期待する機能等	27
4) 自立援助ホームの課題について	28
5) 4) について、記載項目以外の課題や課題を解決するために必要な事項等	34
6) 自立援助ホームの周知に関する児童相談所内での周知方法や周知に必要な事項等	37
II. まとめ	39
1. 神奈川県自立援助ホーム連絡会の回答内容	39
1) 回答事業者（385 事業所）の特徴	39
2) 自立援助ホームとの関わりに関する項目	39
III. 添付資料	43
1. アンケート用紙の体裁	43

# I. アンケートの実施内容

本調査は、神奈川県内の児童相談所職員を対象に、自立援助ホームに対するニーズや今後の課題などについて明らかにするため、アンケート調査を実施した。

## 1. 調査の概要

- ①調査内容 : 回答者属性、現状の関わり、将来に向けた期待や課題、その他各種意見を求めた
- ②調査対象 : 神奈川県内の各児童相談所（詳細は下記の通り）
- ③調査方法 : 郵送調査法、留置調査法
- ④配布方法 : 郵送配布、訪問配布
- ⑤回収方法 : 郵送回収、訪問回収
- ⑥実施時期 : 配布 2018 年 11 月～12 月
- ⑦配布数 : 544 部
- ⑧回収数 : 385 部（回収率：70.8%）
- ⑨配布状況と回収状況

各地域ごとの配布数と回収数

機関名称	配布数	回収数	回収率	回答者番号
<b>【横浜市】</b> 小計	<b>194</b>	<b>136</b>	<b>70.1%</b>	「11**」～「14**」
中央児童相談所	52	24	46.2%	「11**」
西部児童相談所	45	40	88.9%	「12**」
南部児童相談所	50	38	76.0%	「13**」
北部児童相談所	47	34	72.3%	「14**」
<b>【神奈川県】</b> 小計	<b>205</b>	<b>138</b>	<b>67.3%</b>	「21**」～「25**」
中央児童相談所	50	44	88.0%	「21**」
平塚児童相談所	55	34	61.8%	「22**」
厚木児童相談所	50	25	50.0%	「23**」
鎌倉・三浦地域児童相談所	25	20	80.0%	「24**」
小田原児童相談所	25	15	60.0%	「25**」
<b>【川崎市】</b> 小計	<b>75</b>	<b>53</b>	<b>70.7%</b>	「30**」
川崎市内児童相談所	75	53	70.7%	
<b>【相模原市】</b> 小計	<b>50</b>	<b>40</b>	<b>80.0%</b>	「40**」
相模原市児童相談所	50	40	80.0%	
<b>【横須賀市】</b> 小計	<b>20</b>	<b>18</b>	<b>90.0%</b>	「50**」
横須賀市児童相談所	20	18	90.0%	
総合計	544	385	70.8%	「99」

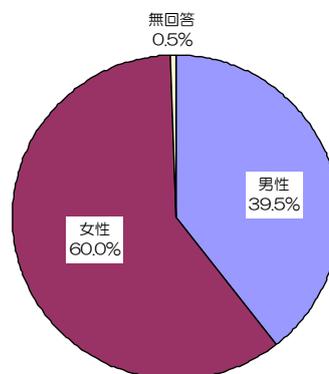
## 2. 回答者に関する基礎項目の集計

### 1) 回答者に関する状況

#### ①性別

選択項目	人数	構成比
男性	152	39.5%
女性	231	60.0%
無回答	2	0.5%
合計	385	99.5%

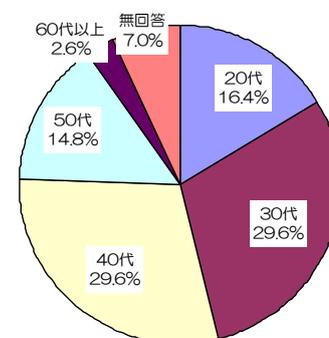
回答者属性 性別



#### ②年齢層

選択項目	人数	構成比
20代	63	16.4%
30代	114	29.6%
40代	114	29.6%
50代	57	14.8%
60代以上	10	2.6%
無回答	27	7.0%
合計	385	100.0%

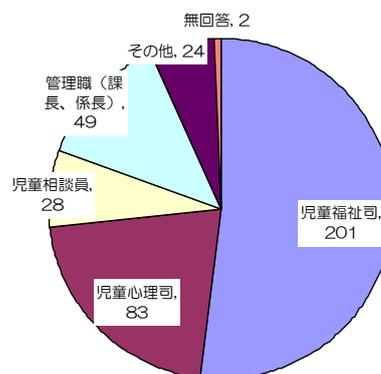
回答者属性 年齢層



#### ③担当職種

選択項目	人数	構成比
児童福祉司	201	52.2%
児童心理司	83	21.6%
児童相談員	28	7.3%
管理職（課長、係長）	49	12.7%
その他	24	6.2%
無回答	2	0.5%
合計	387	100.5%

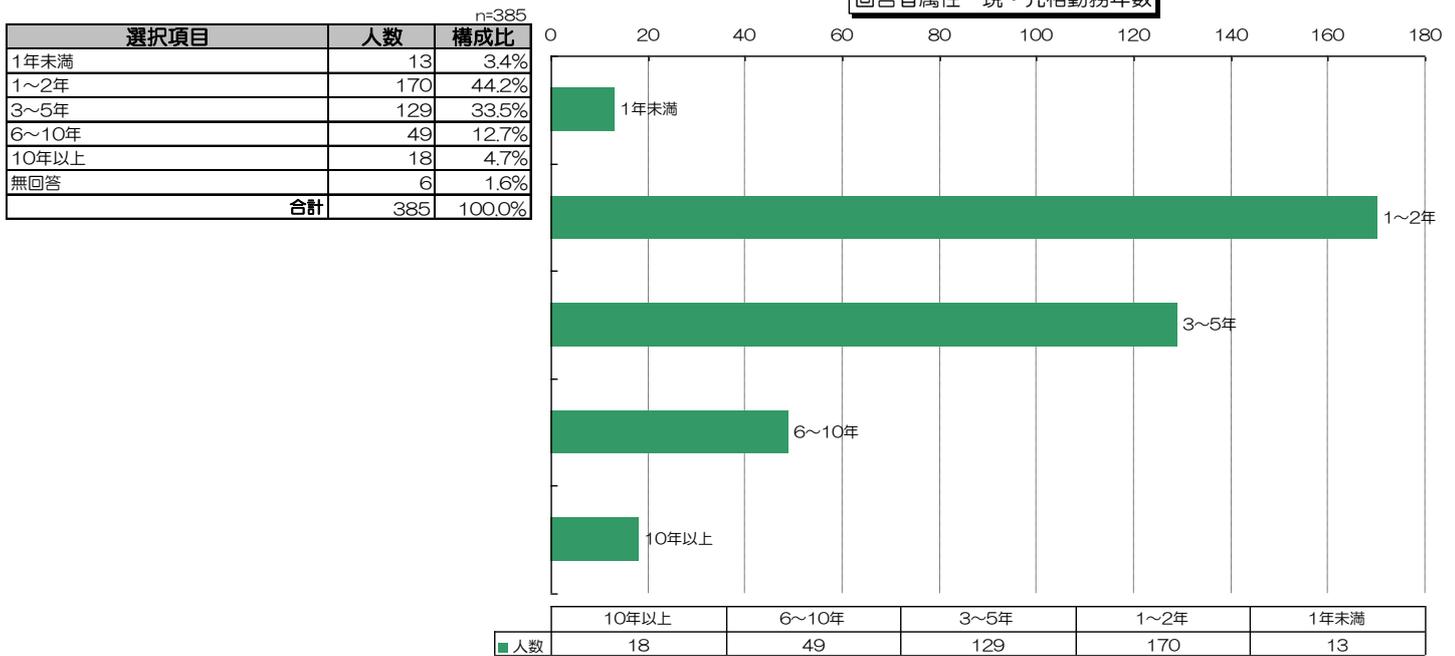
回答者属性 担当職種



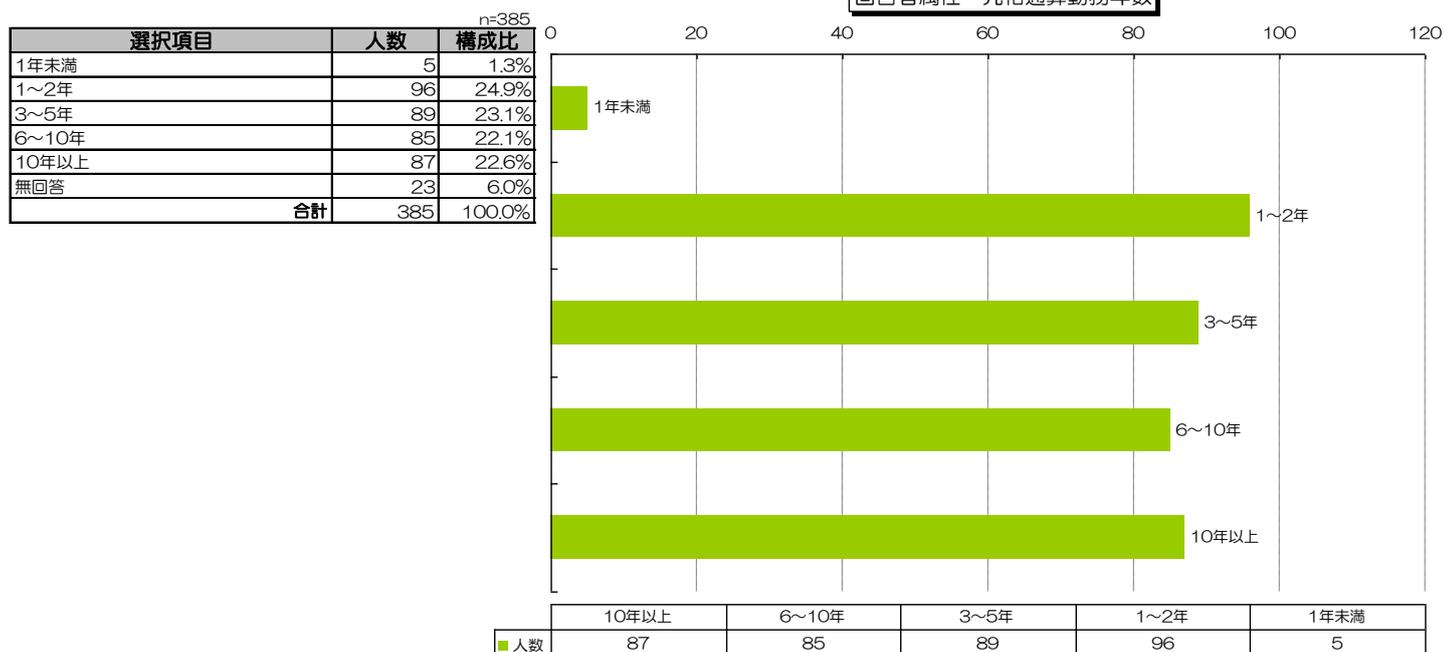
#### \*その他の職種（記述回答）

記述内容	（性別／年代／担当職種）
○ 相談調査員	(女性、20代、児童福祉司)
○ 相談調査員	(女性、20代、その他)
○ 医療職員	(女性、20代、その他)
○ 保健師	(女性、20代、その他)
○ 相談調査員	(女性、50代、児童相談員)
○ 保健師	(女性、40代、その他)
○ 相談調査員	(女性、50代、その他)
○ 相談調査員	(女性、40代、その他)
○ 保健師	(女性、40代、その他)
○ 保健師	(女性、40代、その他)
○ 児童福祉司教育担当	(女性、60代以上、その他)
○ 児童指導員	(男性、40代、その他)
○ 児童指導員	(男性、40代、その他)
○ 児童指導員	(男性、30代、その他)
○ 虐待対応協力員	(女性、40代、その他)
○ 里親担当	(女性、40代、その他)
○ 一時保護所	(女性、40代、その他)

#### ④現在の児童相談所での勤続年数



#### ⑤児童相談所での通算勤続年数



初めに、今回のアンケートへの回答者についてまとめた。性別では【女性】が6割、年齢層では30代、40代がともに約3割、20代、50代が約15%程度の比率となっている。担当職種では【児童福祉司】が52.2%と半数以上を占めており、【児童心理司】が21.6%で続いている。その他の記述回答では【相談調査員】【保健師】【児童指導員】等が見られた。勤続年数では、現勤務先で【1~2年】44.2%、【3~5年】が33.5%の順となった。通算の勤続年数では、【1~2年】が24.9%とやや高めになったが、【3~5年】が23.1%、【10年以上】が22.6%、【6~10年】が22.1%と、各属性ごとの比率に大きな差は無くバランス良く配置されている様子が伺える。

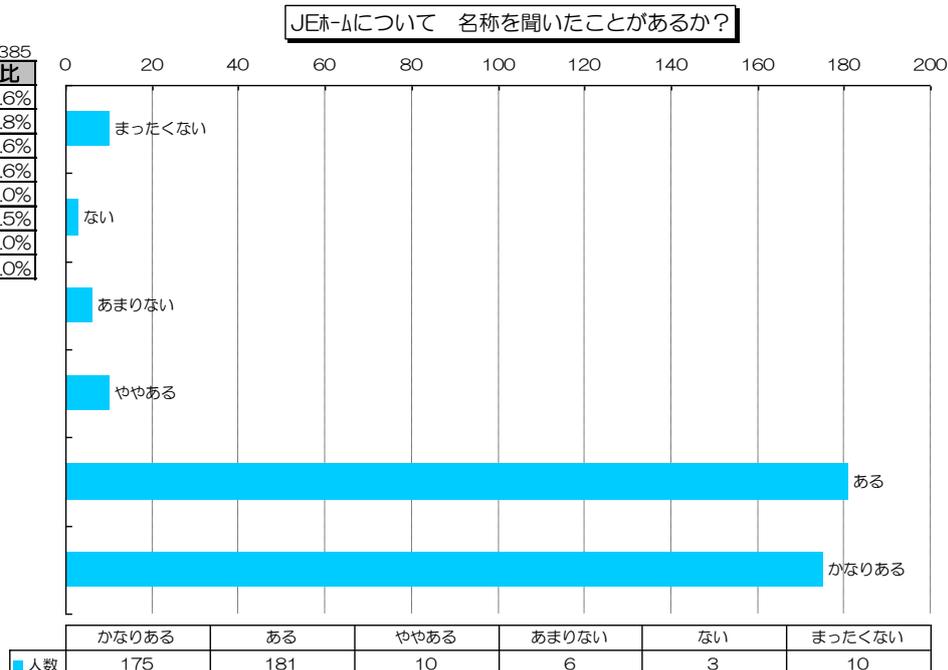
### 3. 自立援助ホームとの関わりに関する項目の集計

#### 1) 自立援助ホームに関する概要

##### ① 認知度

n=385

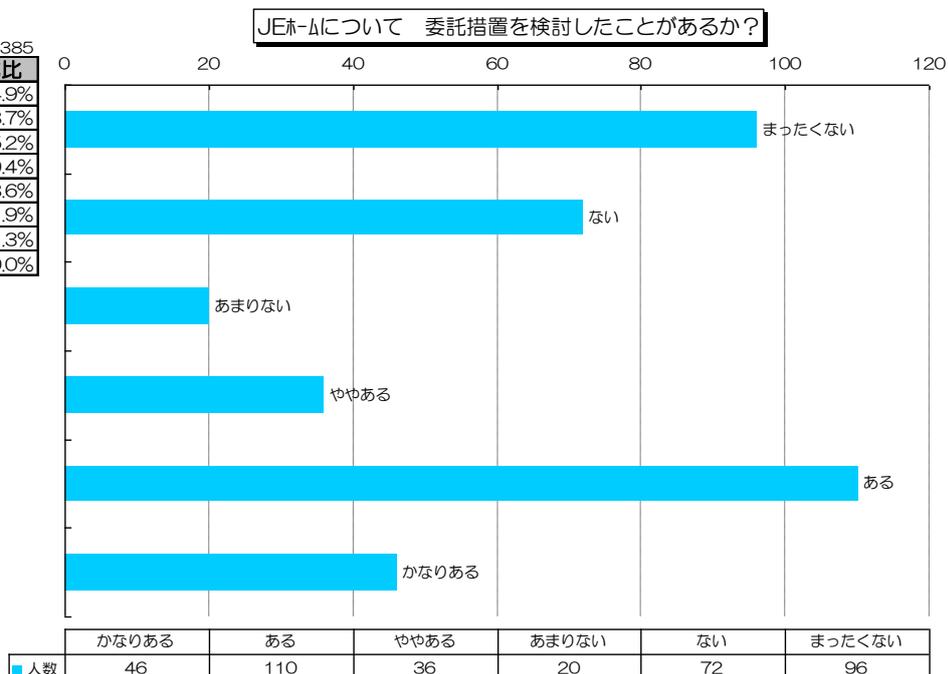
選択項目	人数	構成比
まったくない	10	2.6%
ない	3	0.8%
あまりない	6	1.6%
ややある	10	2.6%
ある	181	47.0%
かなりある	175	45.5%
無回答	0	0.0%
合計	385	100.0%



##### ② 委託措置の検討有無

n=385

選択項目	人数	構成比
まったくない	96	24.9%
ない	72	18.7%
あまりない	20	5.2%
ややある	36	9.4%
ある	110	28.6%
かなりある	46	11.9%
無回答	5	1.3%
合計	385	100.0%

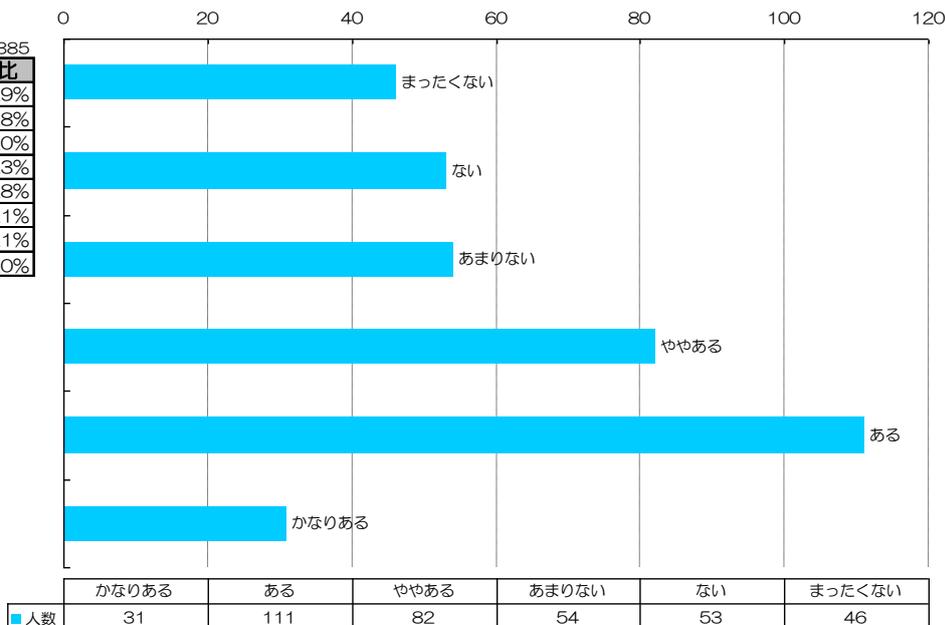


次に自立援助ホームとの関わりに関する状況について聞いた。認知度では【ある】が47.0%、【かなりある】が45.5%と、全体の92.5%は明確に聞いたことがあると回答している。委託措置の検討有無については、【ある】の28.6%、【かなりある】の11.9%、【ややある】の9.4%を合計すると49.9%になることから、約半数の方々は検討した経験があるようだ。

JEホムについて 在宅ケースで利用の必要性を感じたことがあるか？

③在宅ケースで利用の必要性

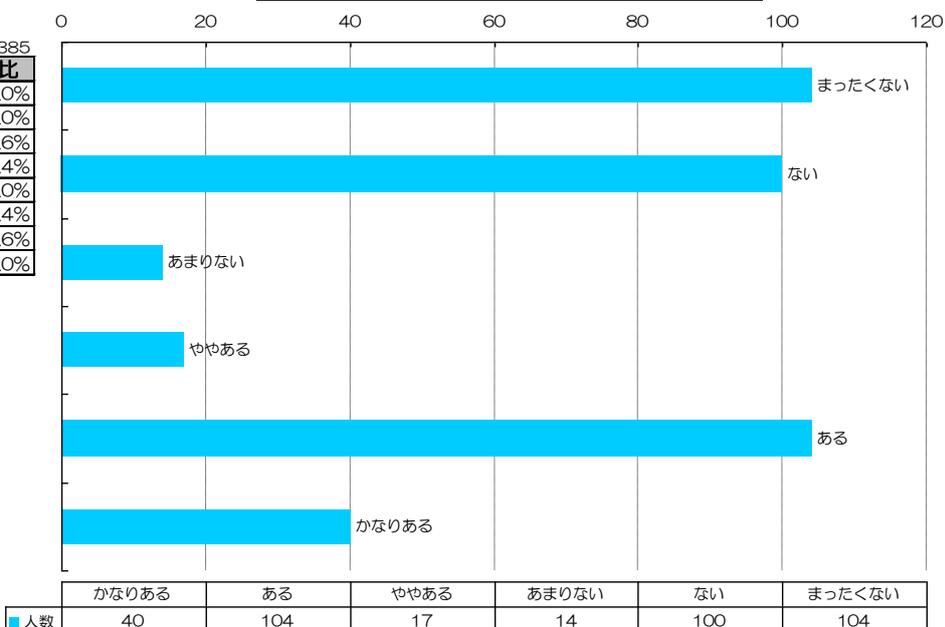
選択項目	人数	構成比
まったくない	46	11.9%
ない	53	13.8%
あまりない	54	14.0%
ややある	82	21.3%
ある	111	28.8%
かなりある	31	8.1%
無回答	8	2.1%
合計	385	100.0%



JEホムについて 過去に連携した担当ケースはあるか？

④連携した担当ケースの有無

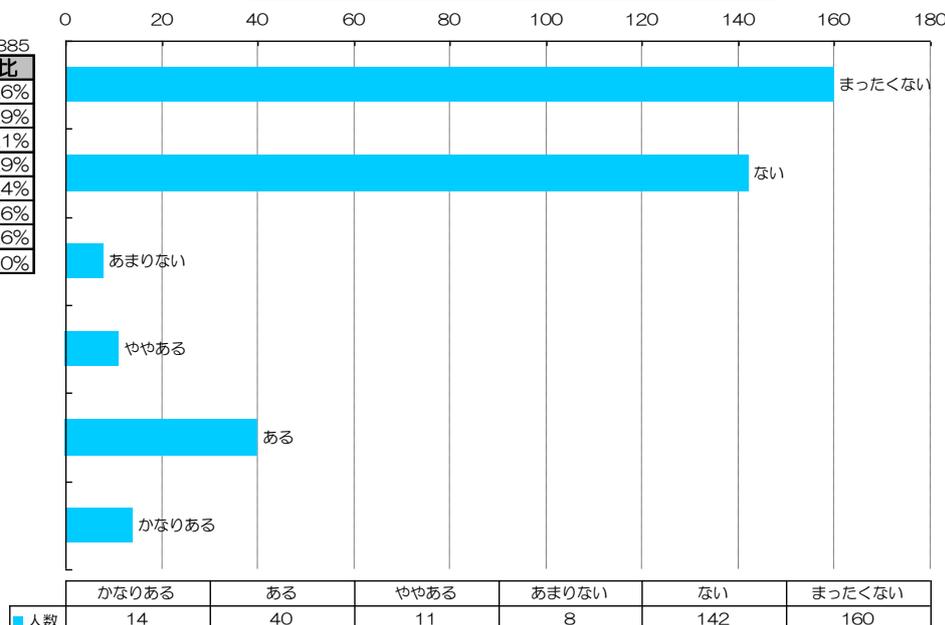
選択項目	人数	構成比
まったくない	104	27.0%
ない	100	26.0%
あまりない	14	3.6%
ややある	17	4.4%
ある	104	27.0%
かなりある	40	10.4%
無回答	6	1.6%
合計	385	100.0%



JEホムについて 現在連携している担当ケースはあるか？

⑤現在連携中の担当ケースの状況

選択項目	人数	構成比
まったくない	160	41.6%
ない	142	36.9%
あまりない	8	2.1%
ややある	11	2.9%
ある	40	10.4%
かなりある	14	3.6%
無回答	10	2.6%
合計	385	100.0%

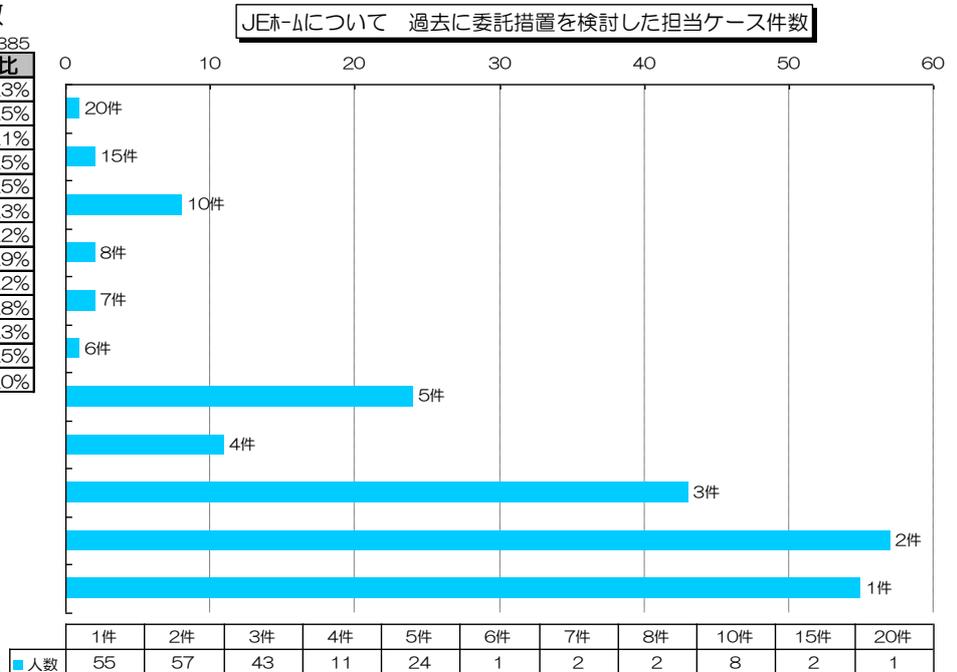


在宅ケースで自立援助ホーム利用の必要性については、【ある】が28.8%、【ややある】が21.3%、【かなりある】が8.1%で約6割が必要性を感じたことがある状況。一方、実際に連携したケースの有無では、【まったくない】が27.0%、【ない】が26.0%と半数を超えていることや、現在の連携状況でも【まったくない】【ない】の合算値が78.5%に上っており、必要性を感じ検討はするが連携に至らなかったケースの多さが伺える。

⑥委託措置を検討した担当ケース件数

n=385

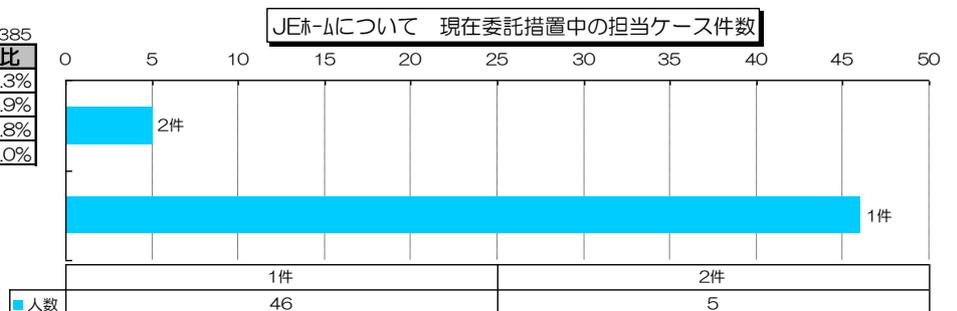
選択項目	人数	構成比
20件	1	0.3%
15件	2	0.5%
10件	8	2.1%
8件	2	0.5%
7件	2	0.5%
6件	1	0.3%
5件	24	6.2%
4件	11	2.9%
3件	43	11.2%
2件	57	14.8%
1件	55	14.3%
0件又は無回答	179	46.5%
合計	385	100.0%



⑦委託措置中の担当ケース件数

n=385

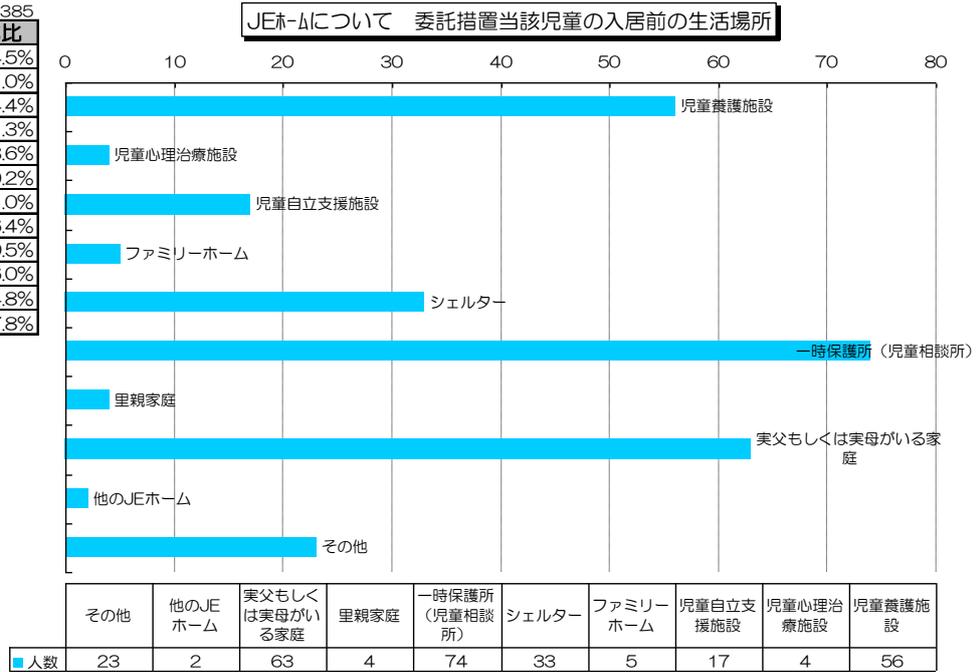
選択項目	人数	構成比
2件	5	1.3%
1件	46	11.9%
0件又は無回答	334	86.8%
合計	385	100.0%



次に、過去に委託措置を検討した担当ケース数について聞いたところ、【2件】が最多で14.8%、【1件】が14.3%、【3件】が11.2%、【5件】が6.2%で続いている。その中で、現在委託措置中の担当ケースでは、【1件】が11.9%、【2件】が1.3%と、全体の13.2%に留まっている。

⑧委託措置当該児童の入居前の生活場所（複数回答）

選択項目	人数	構成比
児童養護施設	56	14.5%
児童心理治療施設	4	1.0%
児童自立支援施設	17	4.4%
ファミリーホーム	5	1.3%
シェルター	33	8.6%
一時保護所（児童相談所）	74	19.2%
里親家庭	4	1.0%
実父もしくは実母がいる家庭	63	16.4%
他のJEホーム	2	0.5%
その他	23	6.0%
無回答	211	54.8%
合計	492	127.8%



\*入居前の生活場所（その他）

記述内容	（性別／年代／担当職種）
○ 親族宅	（女性、50代、児童心理司）
○ 一時保護委託していた病院	（女性、無回答、児童福祉司）
○ 少年院	（男性、30代、管理職（課長、係長））
○ 住み込み就労	（男性、20代、児童福祉司）
○ 病院	（男性、20代、児童福祉司）
○ なし	（女性、40代、児童福祉司）
○ 病院	（女性、40代、管理職（課長、係長））
○ 1人暮らし	（無回答、無回答、児童福祉司）
○ 親族宅	（女性、40代、児童心理司）
○ 精神科思春期病棟	（女性、40代、児童心理司）
○ 祖母と生活	（男性、40代、児童心理司）
○ 入院（病院）	（男性、40代、児童福祉司）
○ 親族宅	（男性、30代、児童福祉司）
○ 未成年後見人(伯母)	（女性、50代、児童相談員）
○ 少年院	（男性、30代、児童心理司）
○ 少年院	（女性、30代、児童福祉司）
○ 少年院	（男性、40代、児童心理司）
○ 居所なし	（男性、30代、児童福祉司）
○ 親族宅	（女性、30代、児童福祉司）
○ 家出中	（女性、50代、児童福祉司）
○ 少年院	（女性、無回答、児童心理司）
○ 母子生活支援施設	（女性、30代、児童福祉司）

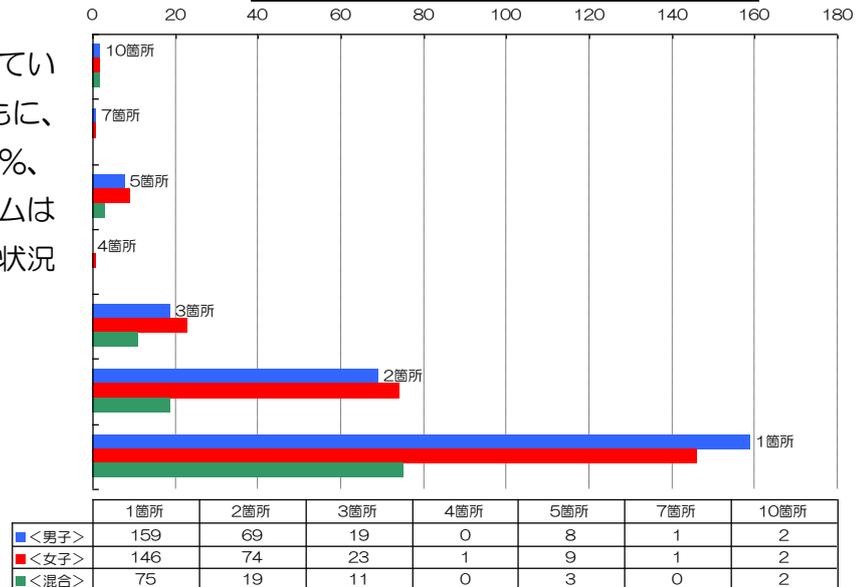
実際に委託措置をしたケースにおける直前の生活場所については、【一時保護所】が74件、【実父もしくは実母がいる家庭】が63件、【児童養護施設】が56件、と共に15%を超えている。その他の記述回答では、【少年院】や【医療機関】などの回答があった。

⑨所轄内で自立援助ホームを増やしていく必要性<男子・女子・混合>

選択項目	<男子> n=385		<女子> n=385		<混合> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
10箇所	2	0.5%	2	0.5%	2	0.5%
7箇所	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%
5箇所	8	2.1%	9	2.3%	3	0.8%
4箇所	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%
3箇所	19	4.9%	23	6.0%	11	2.9%
2箇所	69	17.9%	74	19.2%	19	4.9%
1箇所	159	41.3%	146	37.9%	75	19.5%
0箇所又は無回答	127	33.0%	129	33.5%	275	71.4%
合計	385	100.0%	385	100.0%	385	100.0%

所轄内において自立援助ホームを増やしていく必要性については、男子・女子ホームともに、【1箇所】で約40%、【2箇所】で約20%、と高い増設ニーズが確認出来る。混合ホームは逆に7割の回答者が必要性を感じていない状況が明らかになった。

JEホーム 所轄内で増やす必要性<男子・女子・混合ホーム>

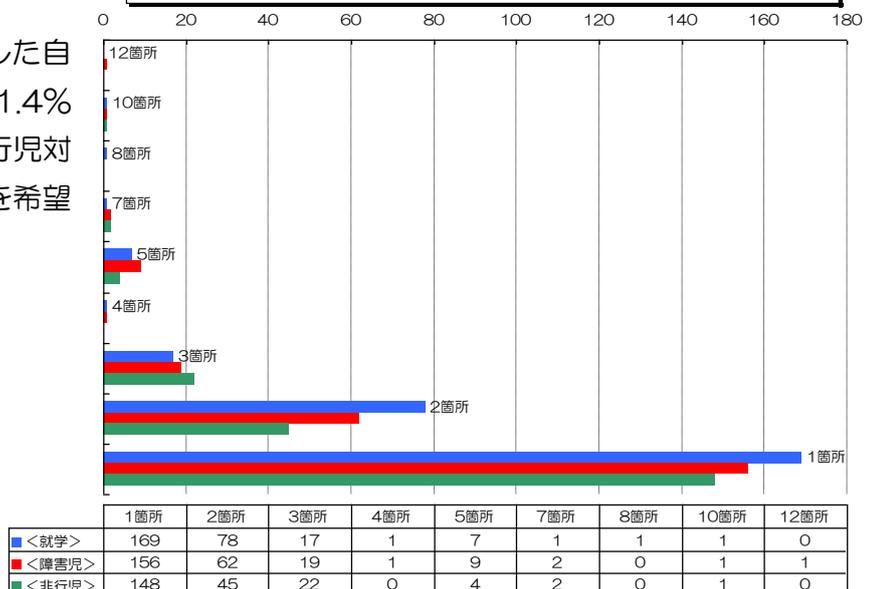


⑩児童特性（ニーズ）に特化した自立援助ホーム設置の必要性<就学型・障害児対応・非行児対応>

選択項目	<就学> n=385		<障害児> n=385		<非行児> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
12箇所	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%
10箇所	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
8箇所	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
7箇所	1	0.3%	2	0.5%	2	0.5%
5箇所	7	1.8%	9	2.3%	4	1.0%
4箇所	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%
3箇所	17	4.4%	19	4.9%	22	5.7%
2箇所	78	20.3%	62	16.1%	45	11.7%
1箇所	169	43.9%	156	40.5%	148	38.4%
0箇所又は無回答	110	28.6%	134	34.8%	163	42.3%
合計	385	100.0%	385	100.0%	385	100.0%

多様化する児童特性（ニーズ）に特化した自立援助ホームの必要性は、【就学型】で71.4%が、【障害児対応型】では65.2%が、【非行児対応型】では57.7%が、一箇所以上の増設を希望している状況である。

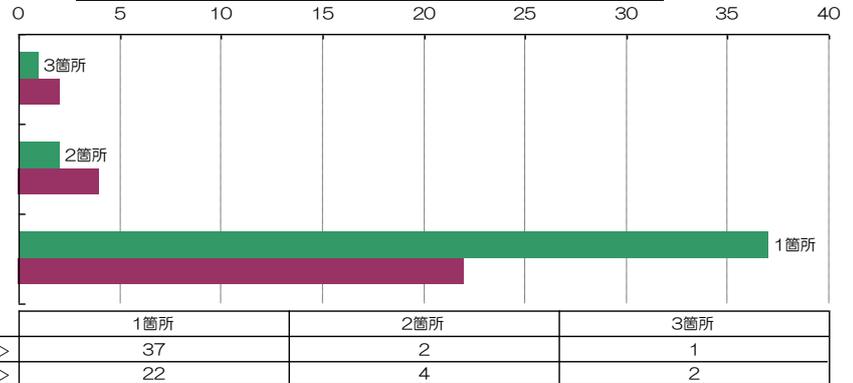
JEホーム 児童特性に特化したホームの増設の必要性<就学型・障害児・非行児ホーム>



⑪所轄外（割愛）の委託措置ケース<県内・県外>

選択項目	<県内> n=385		<県外> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
3箇所	1	0.3%	2	0.5%
2箇所	2	0.5%	4	1.0%
1箇所	37	9.6%	22	5.7%
0箇所又は無回答	345	89.6%	357	92.7%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホーム 所轄外（割愛）の委託措置ケース数<県内・県外>

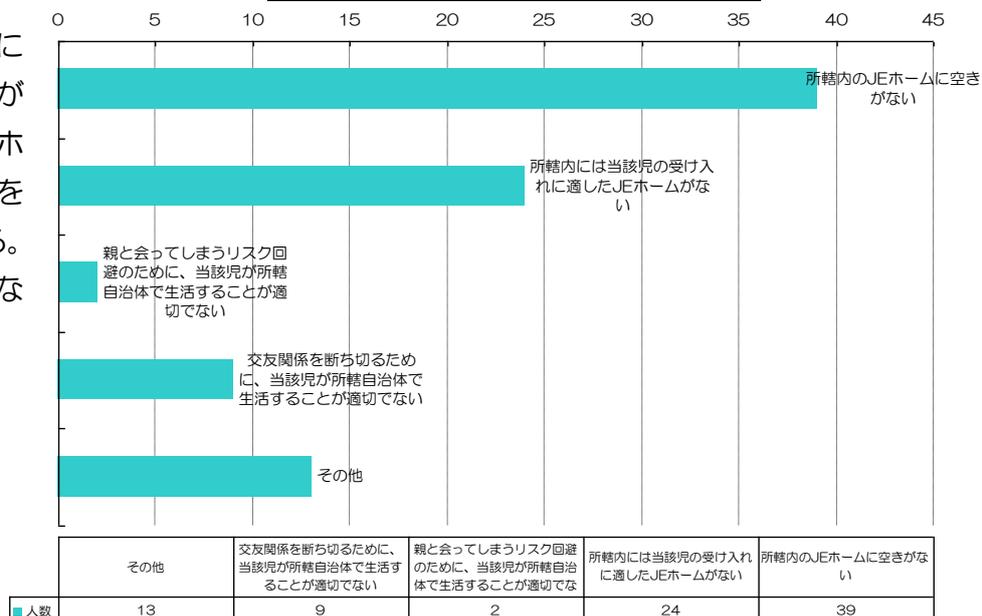


所轄外（割愛）の委託措置ケース数では、【1箇所】で県内が37件、県外で22件。【2箇所】では、県内で2件、県外で4件、【3箇所】では県内で1件、県外で2件となっている。

⑫所轄外（割愛）委託措置した理由

選択項目	人数	構成比
所轄内のJEホームに空きがない	39	10.1%
所轄内には当該児の受け入れに適したJEホームがない	24	6.2%
親と会ってしまうリスク回避のために、当該児が所轄自治体で生活することが適切でない	2	0.5%
交友関係を断ち切るために、当該児が所轄自治体で生活することが適切でない	9	2.3%
その他	13	3.4%
無回答	310	80.5%
合計	397	103.1%

JEホームについて 所轄外（割愛）委託措置した理由



所轄外（割愛）委託措置した理由については、【所轄内の空きがない】が39件と最も多く、【所轄内に適したホームがない】が24件、【交友関係を断ち切るため】が9件で続いている。その他の記述回答は以下の通りとなっている。

\* 所轄外（割愛）委託措置した理由（その他）

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 心理司なので、よくわかりません	(女性、40代、児童心理司)
○ 担当ケースがありません	(女性、40代、児童心理司)
○ 弁護士のおつて	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ ホームから断られた	(男性、40代、児童福祉司)
○ 他自治体の親族宅で生活していたため	(男性、30代、児童福祉司)
○ 空きがあり相談したが断られたため	(男性、50代、児童福祉司)
○ 身元引受人がいなかったため	(男性、30代、児童心理司)
○ なし	(男性、30代、児童福祉司)
○ 依頼したことはあるが委託には至らなかった	(女性、40代、児童福祉司)
○ 少年院退院時の担当弁護士の調整による	(男性、40代、管理職(課長、係長))
○ 就職先に近いところ	(女性、30代、児童心理司)
○ 高校生だったから	(男性、40代、児童心理司)
○ 所轄内にJEホームがなかったから	(女性、40代、児童心理司)
○ 当時は所轄内にJEホームがなかったため	(女性、40代、無回答)

⑬過去に自立援助ホームの委託措置を検討して実施に至らなかった理由

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 本児の希望の沿わなかった。(帰宅意向が強かったため。)	(女性、20代、児童福祉司)
○ ・ 女児の受け入れ先が無い ○ ・ 家庭引き取りが急遽決まった	(女性、20代、児童福祉司)
○ 障害児対応型への検討するも、親の了承を最終的に得られず入所実現しなかったため。	(女性、50代、児童心理司)
○ ホームのルール等に児童が適応できなかったため等	(男性、40代、児童福祉司)
○ 管理職などで担当ケースなどはないですが、本人の意向の変化、本人の状態像と施設の体制がマッチしなかったケースはそれなりに多かったです	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ ・ 空きがなかった ○ ・ JEホームと条件が折り合わなかった (一人部屋、バイトの時間帯や内容) など	(女性、50代、児童心理司)
○ 受け入れ可能な施設がない	(女性、30代、児童心理司)
○ 生活保護を受けアートを設定したため	(女性、30代、児童相談員)
○ 適当なJEホームが無かった	(女性、30代、児童心理司)
○ 受け入れ困難とJE側の返答	(男性、無回答、管理職(課長、係長))
○ ケース的に対応困難といわれた	(女性、30代、児童福祉司)
○ ・ 児童への動機づけがうまくいかなかった。 ○ ・ 打診前に児童が体調を崩した。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ ケースが少年院に入ったため	(女性、30代、児童福祉司)
○ 担当ケースの家庭環境等が変わり、方針が変わったため	(女性、20代、児童福祉司)
○ 児童の精神などの課題	(無回答、無回答、児童福祉司)
○ ・ 児童のモチベーションが上がらなかった。 ○ ・ 寮のある職場に就職できた。	(女性、40代、児童福祉司)
○ ホームに断られた。	(女性、30代、児童心理司)
○ JEホームに送るには、本児の動機が弱いから・・・と思う。 職員への負担感も大きいと思う。	(女性、30代、児童心理司)
○ 担当ケースで該当するものはありません	(女性、40代、児童心理司)
○ 児童の非行行動の抑制の難しさ。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 入所条件として出された精神科医療受診がクリアできなかったため	(女性、50代、児童心理司)
○ JEホームに空きがなかった。	(女性、40代、児童福祉司)
○ なし。	(男性、20代、児童福祉司)
○ 子どもが自宅で生活を希望したため。	(女性、40代、児童心理司)
○ 各自立援助ホームごとの特長特色に対して児の拒否があったため。(利用料の支払いや就労先の指定等)	(男性、20代、児童福祉司)
○ ・ 空きがなかった ○ ・ 入所しても不応をこすリスクが高かった	(男性、無回答、児童福祉司)
○ ・ 空いていない ○ ・ ルールが折りあわず	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 児童の特性や事情にはいりよ、対応できる可能性が低いから	(女性、30代、児童心理司)
○ 本児の動機が不十分であった(希望しなかった)	(女性、30代、児童福祉司)
○ JEホームでの適応は難しいケースだった	(男性、40代、児童福祉司)
○ ・ 本人の動機づけが十分でなかったため。	(無回答、無回答、児童福祉司)
○ 本人の意向が変わった	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 集団生活がうまくいかない。	(女性、30代、児童心理司)
○ 子が拒否した	(男性、40代、児童福祉司)
○ 本児の状態が自立へ向けて取り組める状態ではなかったため	(女性、20代、児童福祉司)
○ 空きがないなど、子どもと施設のタイミングが合わない	(男性、30代、児童福祉司)
○ JEではなくグループホーム利用や措置延長・方向となりそうなため	(男性、20代、児童福祉司)
○ なし。	(女性、40代、その他)
○ 子どもの特性から障害児施設がのぞましいという方針になったため	(女性、40代、児童福祉司)
○ 親が了解せず本人の気持ちも変化した	(女性、40代、児童福祉司)
○ 定員いっぱいでは受け入れできない	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 児童の意志が固まらなかった。	(男性、40代、児童相談員)
○ ・ 本人の自立にむかう気持ちが固まらなかった。 ○ ・ 家庭に戻るようになった。	(女性、40代、児童心理司)
○ 保護者の同意をえられなかったため (結局子どもが根負けして家にもどらずに家出)	(女性、50代、児童心理司)
○ ・ JEでは就学が難しかったこと ○ ・ 養護施設で就学と大学進学への応援をしてもらえることとなったため	(女性、20代、児童福祉司)
○ ・ 子どもが見学をし、イメージに合わないと言った。 ○ ・ 検討した結果、JEホームの生活の弊に対応する力が未熟であると判断した	(女性、40代、児童心理司)
○ 自立援助ホームに一時保護をしてそのまま措置することを検討したが、本人が家に帰ることを望んだため	(男性、30代、児童福祉司)
○ ①他県の児童自主支援施設不応で母宅にひきとられるが、関係性の悪化から引き行動として自殺合図をくり返し精神科病院入院となった16才女児。退院先として検討、医療的対応が優先されることとして、ことわられた。	(女性、60代以上、その他)
○ 記憶にない	(女性、40代、児童心理司)
○ 住み込み就労が決まった。	(男性、40代、児童福祉司)
○ ニーズ解消	(女性、20代、児童福祉司)
○ 児童が高校通学継続を希望していたため	(女性、40代、児童福祉司)
○ ・ 子どもが生活上のルールを守ることが難しそうだと行動観察上、見られたため。 ○ ・ 行動化が著しいと、対応が大変であろうと思われるかもしれないことがある。	(女性、40代、児童心理司)
○ 本人、保護者が望まなかったため	(女性、40代、児童心理司)
○ 子どもの気持ちがまとまらなかったため	(女性、40代、児童相談員)
○ 通学ができなかった(高校生)	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ ・ 児童本人が自立援助ホームではなく家庭引き取りを選んだため ○ ・ 自立援助ホームでは対象児童の支援はできないと判断されたため	(女性、30代、児童福祉司)
○ ・ 満床のため ○ ・ 既に入所しているケースと関係していたため	(男性、50代、管理職(課長、係長))
○ 見学はしたが空きが出るまでに数ヶ月要するとの見立てがあり別の方法をとらざるを得なかった。	(男性、40代、その他)
○ ・ 社会資源として、JEホームしか考えられなかったが、JEホームに適応できる児童ではなかったため。	(男性、40代、児童福祉司)
○ ・ 児童養護施設を16才で退所する際に検討しましたが、本児自身が断りました。 (15才でも相談したことのあるケースでしたので、ぜひお願いしたかったですが)	(女性、50代、児童福祉司)
○ 空きなし	(男性、無回答、管理職(課長、係長))
○ 条件あわず	(男性、40代、児童福祉司)
○ なし。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 空きがなかったため。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 1.住み込み就労先にて生活することを選択。 2.本人が入所の決断に至らない。	(女性、40代、児童心理司)

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ なし	(女性、40代、児童相談員)
○ ・就学が支障となった ・就労の可能性、意欲が課題となった。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ ・本人のニーズ。 ・空き状況。	(男性、30代、児童福祉司)
○ JFホームに空きがなかった	(男性、60代以上、児童心理司)
○ 本人が選択しなかった。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 定員いっぱい	(女性、50代、児童相談員)
○ ・空きがなかった ○ ・通学できなかった ○ ・ホームのルールに子どもが納得できなかった	(男性、30代、児童福祉司)
○ 所管内のJFに空きがなく管外別のホームに空きがあり、割愛を打診するも、運営体制を理由に断られた。	(女性、40代、児童福祉司)
○ ・祖母宅へ引き取りとなった ○ ・てんぼ経由でステップハウスに入った	(男性、50代、児童福祉司)
○ 高校生活維持ができそうにないため	(女性、50代、児童心理司)
○ 結果的に家庭で受け入れ、子ども本人も入所を望まなかった	(男性、40代、児童相談員)
○ 女子で通学するのに遠すぎて本人が拒否した ○ 割愛も検討したが、精神科受診も必要で、支援が大変なケースで、対応困難とのことになった。	(女性、50代、児童福祉司)
○ 家庭引取りとなったため。	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・関係調整がうまくいったため。 ○ ・空きがなかったため。	(男性、30代、児童心理司)
○ なし	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・本人の状態(精神状態が不安定、自傷有) ○ ・就学したままの委託措置が可能なホームがなかった。	(女性、30代、児童心理司)
○ 本人が拒否した	(男性、40代、管理職(課長、係長))
○ 発達障害があり、生活ができるか不安。途中で就労希望がなくなるかもしれない児であったため。	(女性、30代、児童心理司)
○ 空きがない。 ○ JFの色にそぐわない。	(男性、30代、児童福祉司)
○ ホームでうけてくれないと言われた。 ○ あるいは、そう予想されるので打診もしなかった →在宅or単身生活ホコの調整を行い解決	(女性、40代、児童福祉司)
○ 空きなし。	(男性、40代、児童心理司)
○ JFホームが受入不可であった。	(男性、40代、児童心理司)
○ ・単親委託の措置延長ができることになった	(女性、20代、児童心理司)
○ 児童本人と見学等したが、動機づけができなかった	(女性、40代、児童福祉司)
○ 高校年齢で通学しながらの生活とホームのルール等のおりあいが見つかず。 ○ ・家庭引き取りとなった。 ○ ・単親委託とした。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 自立が難しく、もう少し支援が必要だったため	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 施設に空きがない。	(男性、30代、管理職(課長、係長))
○ 就学する場合は受けてもらえなかつたりする。	(女性、20代、児童心理司)
○ ・児が希望しなかった。 ○ ・所轄内に空きがなく、児の希望にそれない。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 定時制高校への登校保障	(女性、50代、児童福祉司)
○ 本人の希望が無くなったため	(女性、30代、児童心理司)
○ ありません	(男性、20代、児童福祉司)
○ なし	(女性、40代、その他)
○ 本児の納得	(男性、30代、児童福祉司)
○ なし	(女性、20代、その他)
○ もっと適した別の施設に委託することになったため	(女性、30代、児童心理司)
○ 委託措置検討とまではいかないが、その方向性も担当としては考えたかった。しかし、本人の意志が十分ではなかったため、具体的に検討するに至らなかった。	(女性、20代、児童心理司)
○ 児童との面接の結果、JFホームより入所は難しいとの回答えたため	(女性、無回答、児童心理司)
○ ・空きがなかった ○ ・既に入所している児童との相性の問題で断られた	(女性、30代、児童心理司)
○ 本人が動機なかった	(女性、40代、児童心理司)
○ 親族の支援により、専門学校へ進学し、学生寮に入れたため	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・対象児が最終的に利用を希望しなかった ○ ・対象児の生活能力の低さにJFが対応困難だった	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・受け入れ可のホームがなかった。 ○ ・本人が入所希望を取り下げた。	(女性、30代、児童福祉司)
○ ・見学まで実践したが、ルールの厳しさに耐えられず、前措置入所の児童養護施設の近くにアパート設定することになった。 ○ ・入所打診までしたが、当該施設近くにケースの友人がいることがわかり、入所を見送ることになった。その後、単身生保となった(ルールの厳しさに耐えられないことが主な理由)	(男性、30代、児童福祉司)
○ グループホームに入所したため。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 入所委託措置当日まで支援したが児童がやっぱり入所したくないと意向を変えた為	(男性、40代、児童福祉司)
○ 就労が決まった為	(男性、30代、児童福祉司)
○ 高校卒業を目指していたので、当時の実状と照らし合せ、措置に至りませんでした	(男性、30代、児童福祉司)
○ 知的障害をもち、性被害をうけ子どもを生んだケースでうけ入れてもらえるJFホームがなかったため	(女性、40代、児童心理司)
○ 見学を実施したが、担当ケースが、利用を望まなかったため。	(女性、20代、児童福祉司)
○ ・入所契約当日に、児童の気がかわったから。 ○ ・高校入学を希望していたこともあるから。	(女性、40代、児童心理司)

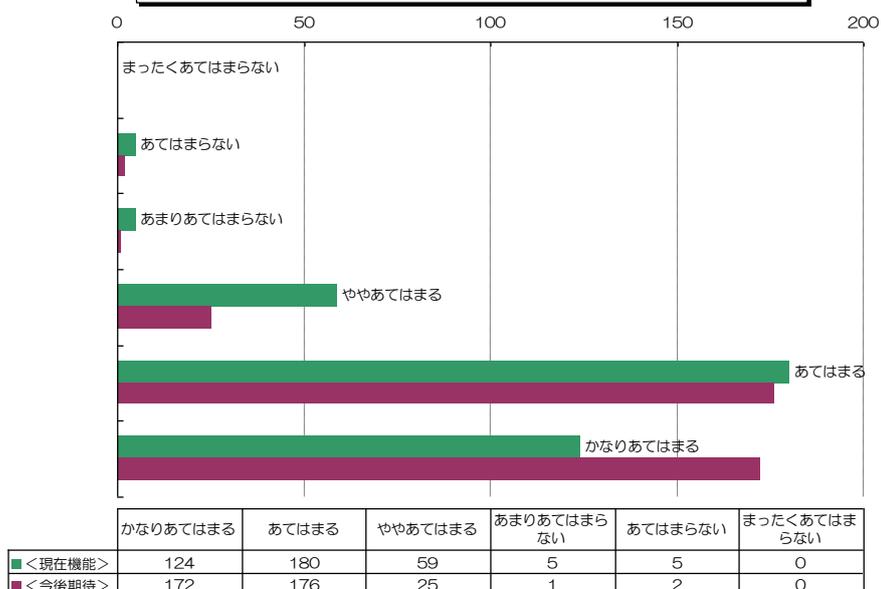
●過去に自立援助ホームの委託措置を検討したが実施に至らなかったケースの記述回答では、【受入可能なホームが無かった】【本人の意向で至らなかった】【障害に関わる事情】などの意見が寄せられている。

## 2) 自立援助ホームの機能について（現在果たしている、今後期待している機能）

### ①高年齢児の生活拠点・居場所機能

選択項目	＜現在機能＞		＜今後期待＞	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%	0	0.0%
あてはまらない	5	1.3%	2	0.5%
あまりあてはまらない	5	1.3%	1	0.3%
ややあてはまる	59	15.3%	25	6.5%
あてはまる	180	46.8%	176	45.7%
かなりあてはまる	124	32.2%	172	44.7%
無回答	12	3.1%	9	2.3%
合計	385	100.0%	385	100.0%

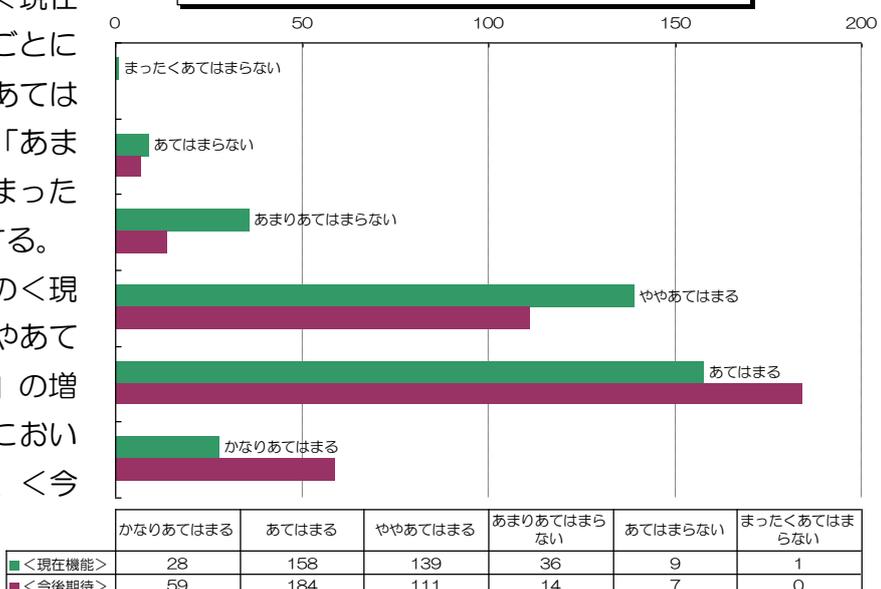
JEホームの役割（現在機能・今後期待） ①高年齢児の生活拠点・居場所機能



### ②基本的な生活習慣の獲得

選択項目	＜現在機能＞		＜今後期待＞	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	1	0.3%	0	0.0%
あてはまらない	9	2.3%	7	1.8%
あまりあてはまらない	36	9.4%	14	3.6%
ややあてはまる	139	36.1%	111	28.8%
あてはまる	158	41.0%	184	47.8%
かなりあてはまる	28	7.3%	59	15.3%
無回答	14	3.6%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホームの役割（現在機能・今後期待） ②基本的な生活習慣の獲得



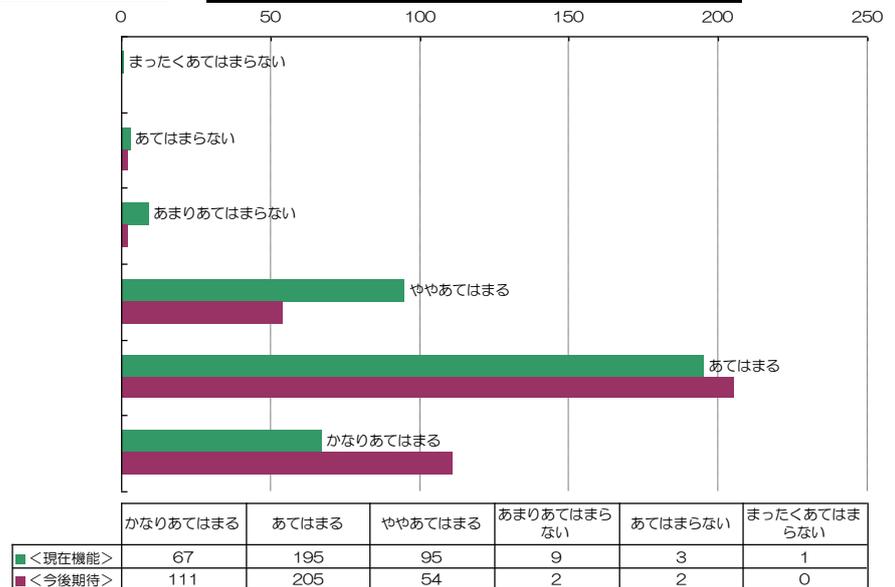
次に、自立援助ホームの機能に関する＜現在機能＞と＜今後期待＞について、各項目ごとに聞いている。＊以下「ややあてはまる」「あてはまる」「かなりあてはまる」を【肯定側】、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」を【否定側】と表現する。

●高年齢児の生活拠点・居場所についての＜現在機能＞と＜今後期待＞の比較では、「ややあてはまる」の減少分が「かなりあてはまる」の増加分となった。●基本的な生活習慣の獲得においては、＜現在機能＞【肯定側】が84.4%、＜今後期待＞では、91.9%まで増加した。

### ③社会的経験の獲得

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	1	0.3%	0	0.0%
あてはまらない	3	0.8%	2	0.5%
あまりあてはまらない	9	2.3%	2	0.5%
ややあてはまる	95	24.7%	54	14.0%
あてはまる	195	50.6%	205	53.2%
かなりあてはまる	67	17.4%	111	28.8%
無回答	15	3.9%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

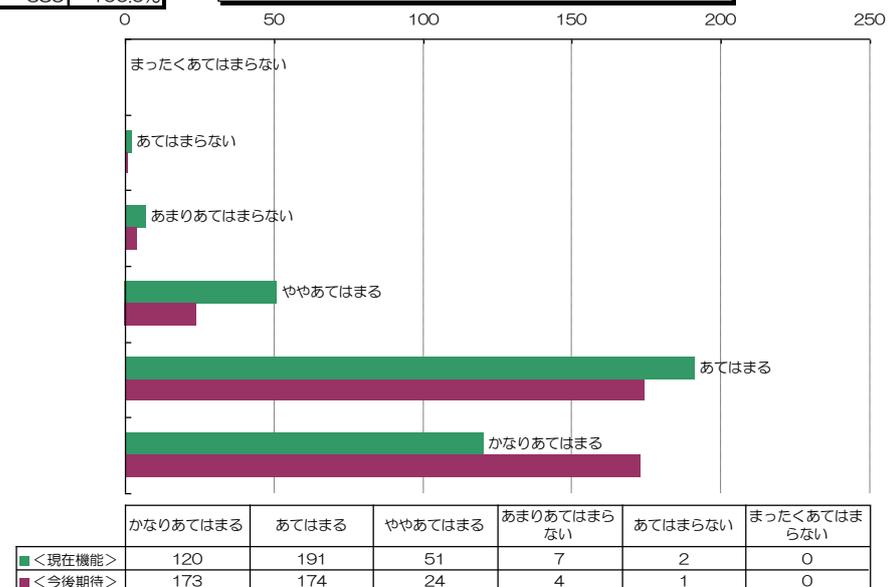
JEホームの役割（現在機能・今後期待） ③社会的経験の獲得



### ④経済的自立準備

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%	0	0.0%
あてはまらない	2	0.5%	1	0.3%
あまりあてはまらない	7	1.8%	4	1.0%
ややあてはまる	51	13.2%	24	6.2%
あてはまる	191	49.6%	174	45.2%
かなりあてはまる	120	31.2%	173	44.9%
無回答	14	3.6%	9	2.3%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホームの役割（現在機能・今後期待） ④経済的自立準備

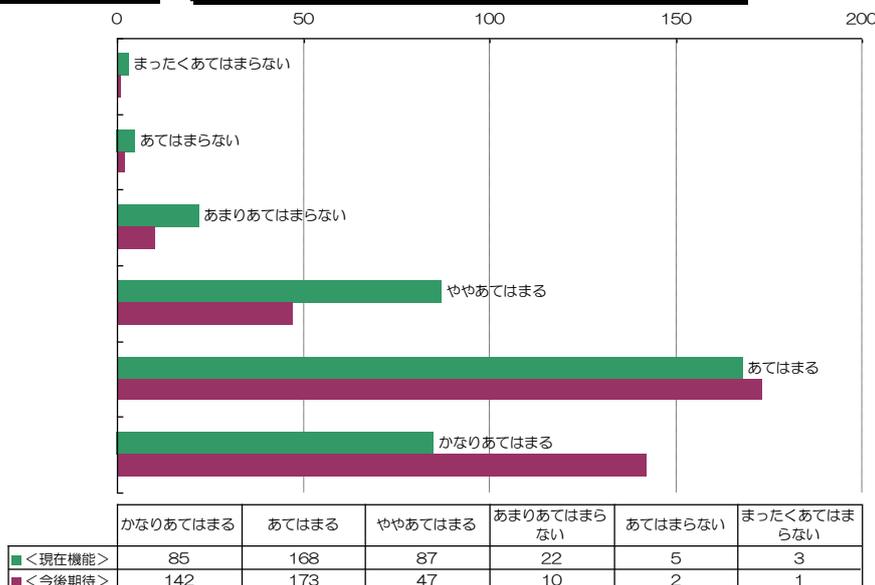


●社会的経験の獲得では、<現在機能>でも【あてはまる】が半数を超えている上に、<今後期待>では更に増加。【かなりあてはまる】は<今後期待>で10ポイント以上の増加となっている。●経済的自立準備においても【かなりあてはまる】が17ポイントを超える増加となった。

### ⑤未就労児の就労支援

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	3	0.8%	1	0.3%
あてはまらない	5	1.3%	2	0.5%
あまりあてはまらない	22	5.7%	10	2.6%
ややあてはまる	87	22.6%	47	12.2%
あてはまる	168	43.6%	173	44.9%
かなりあてはまる	85	22.1%	142	36.9%
無回答	15	3.9%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

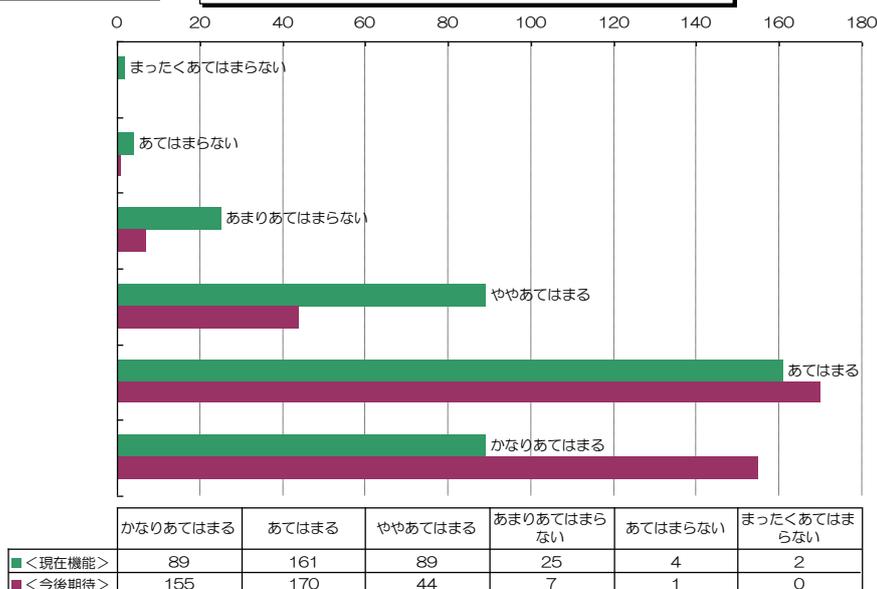
JEホ-ム役割（現在機能・今後期待） ⑤未就労児の就労支援



### ⑥就労後の定着支援

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%	0	0.0%
あてはまらない	4	1.0%	1	0.3%
あまりあてはまらない	25	6.5%	7	1.8%
ややあてはまる	89	23.1%	44	11.4%
あてはまる	161	41.8%	170	44.2%
かなりあてはまる	89	23.1%	155	40.3%
無回答	15	3.9%	8	2.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホ-ム役割（現在機能・今後期待） ⑥就労後の定着支援



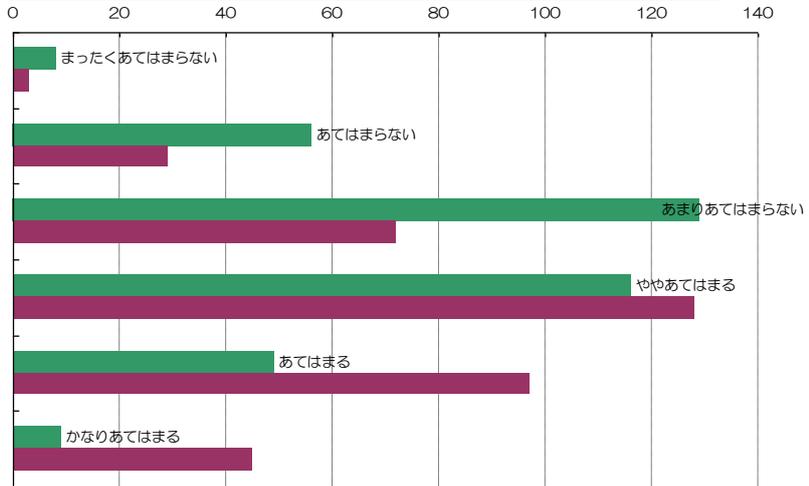
●未就労児の就労支援では、【かなりあてはまる】が<今後期待>で約 15 ポイントの増加。●就労後の定着支援も 15 ポイント以上の増加となっている。

⑦義務教育の再学習を目的とした学習支援

<現在機能> n=385 <今後期待> n=385

選択項目	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	8	2.1%	3	0.8%
あてはまらない	56	14.5%	29	7.5%
あまりあてはまらない	129	33.5%	72	18.7%
ややあてはまる	116	30.1%	128	33.2%
あてはまる	49	12.7%	97	25.2%
かなりあてはまる	9	2.3%	45	11.7%
無回答	18	4.7%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホ-ム役割（現在機能・今後期待）⑦義務教育の再学習を目的とした学習支援



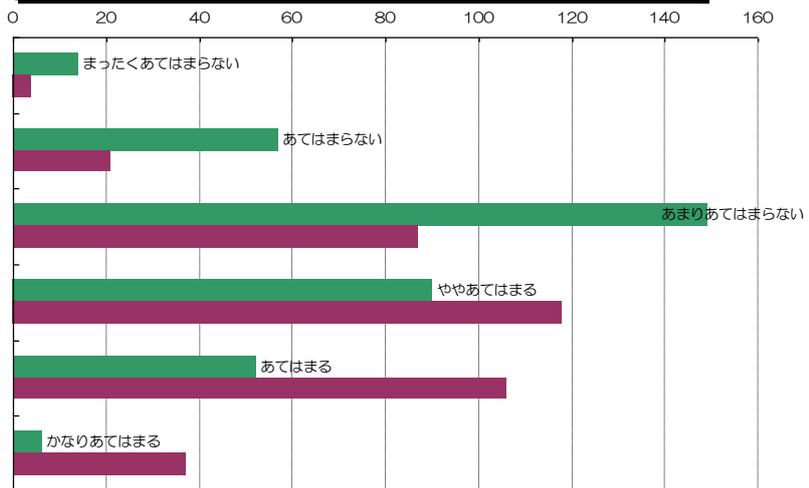
	かなりあてはまる	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	まったくあてはまらない
<現在機能>	9	49	116	129	56	8
<今後期待>	45	97	128	72	29	3

⑧将来的な進学を目的とした学習支援

<現在機能> n=385 <今後期待> n=385

選択項目	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	14	3.6%	4	1.0%
あてはまらない	57	14.8%	21	5.5%
あまりあてはまらない	149	38.7%	87	22.6%
ややあてはまる	90	23.4%	118	30.6%
あてはまる	52	13.5%	106	27.5%
かなりあてはまる	6	1.6%	37	9.6%
無回答	17	4.4%	12	3.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホ-ム役割（現在機能・今後期待）⑧将来的な進学を目的とした学習支援



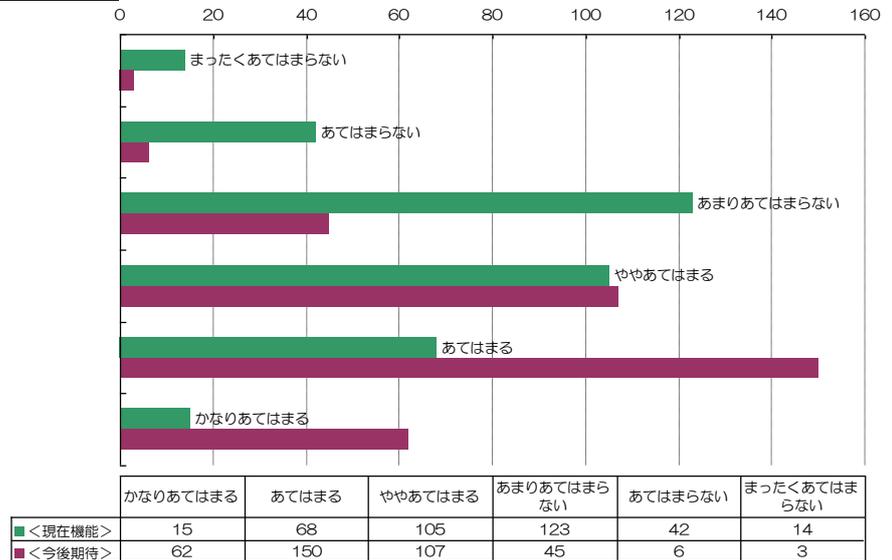
	かなりあてはまる	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	まったくあてはまらない
<現在機能>	6	52	90	149	57	14
<今後期待>	37	106	118	87	21	4

●義務教育の再学習を目的とした学習支援では、<現在機能>【否定側】が 50.1%となったが、<今後期待>では 27.0%まで低下し、<今後の期待>においては、【あてはまる】【かなりあてはまる】が大きく増加している。●将来的な進学を目的とした学習支援においても、前項同様の傾向で、<現在機能>【否定側】が半数を超えているが、<今後期待>【肯定側】は増加していることが確認できる。

⑨社会的養護自立支援事業にある大学や専門学校等へ進学する児童の自立支援

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	14	3.6%	3	0.8%
あてはまらない	42	10.9%	6	1.6%
あまりあてはまらない	123	31.9%	45	11.7%
ややあてはまる	105	27.3%	107	27.8%
あてはまる	68	17.7%	150	39.0%
かなりあてはまる	15	3.9%	62	16.1%
無回答	18	4.7%	12	3.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%

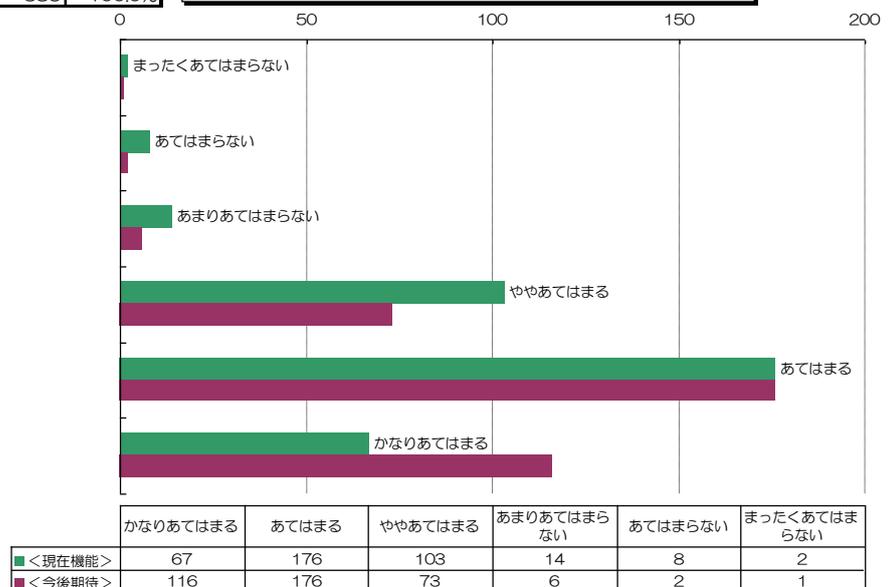
JE-HLMの役割（現在機能・今後期待） ⑨社会的養護自立支援事業にある大学や専門学校等へ進学する児童の自立支援



⑩日常生活上の相談支援

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%	1	0.3%
あてはまらない	8	2.1%	2	0.5%
あまりあてはまらない	14	3.6%	6	1.6%
ややあてはまる	103	26.8%	73	19.0%
あてはまる	176	45.7%	176	45.7%
かなりあてはまる	67	17.4%	116	30.1%
無回答	15	3.9%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JE-HLMの役割（現在機能・今後期待） ⑩日常生活上の相談支援

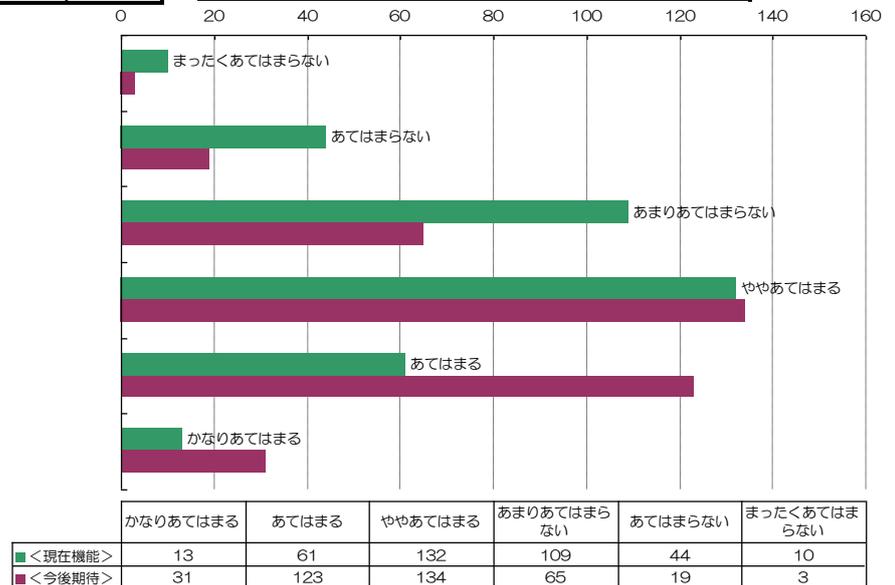


●大学や専門学校等への進学する児童の自立支援では、＜現在機能＞【あまりあてはまらない】が3割以上だが、＜今後期待＞では【あてはまる】が約4割まで増加している。●日常生活上の相談支援では、＜今後期待＞【かなりあてはまる】が10ポイント以上の増加となった。

### ⑪心理的・医療的ケア

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	10	2.6%	3	0.8%
あてはまらない	44	11.4%	19	4.9%
あまりあてはまらない	109	28.3%	65	16.9%
ややあてはまる	132	34.3%	134	34.8%
あてはまる	61	15.8%	123	31.9%
かなりあてはまる	13	3.4%	31	8.1%
無回答	16	4.2%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

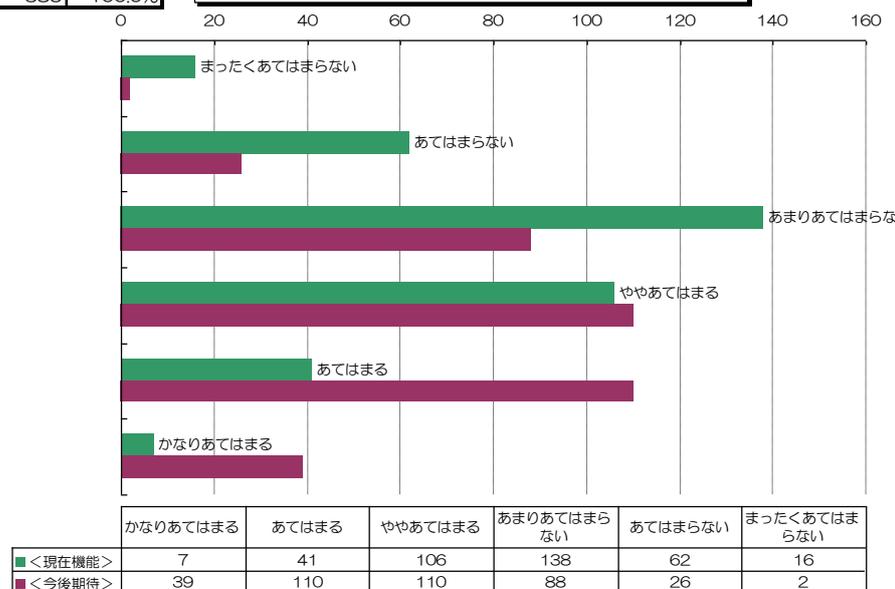
JEホームの役割（現在機能・今後期待） ⑪心理的・医療的ケア



### ⑫障害児に対する支援

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	16	4.2%	2	0.5%
あてはまらない	62	16.1%	26	6.8%
あまりあてはまらない	138	35.8%	88	22.9%
ややあてはまる	106	27.5%	110	28.6%
あてはまる	41	10.6%	110	28.6%
かなりあてはまる	7	1.8%	39	10.1%
無回答	15	3.9%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホームの役割（現在機能・今後期待） ⑫障害児に対する支援



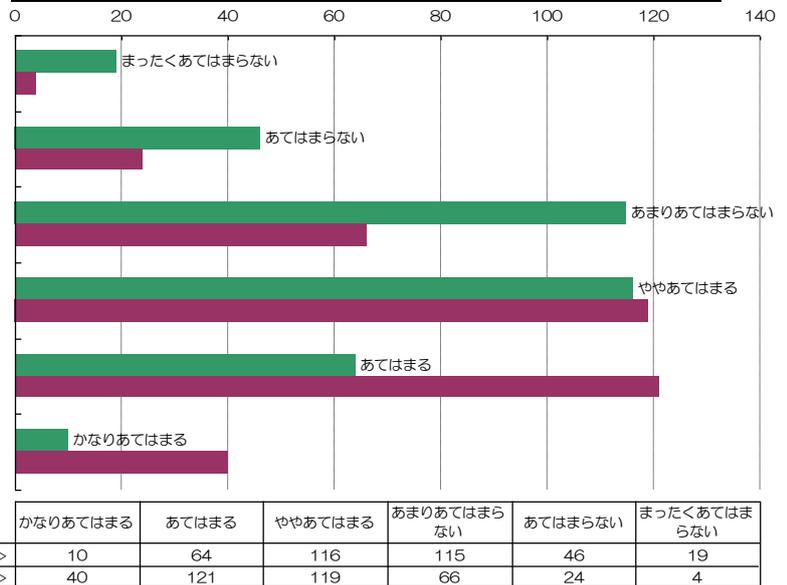
●心理的・医療的なケアでは、【ややあてはまる】を折り返しとして、<現在機能>と<今後期待>が正反対になっており、<今後期待>の大きさが伺える。●障害児に対する支援では、<現在機能>【あまりあてはまらない】が35.8%で最も高くなっているが、<今後期待>においては【あてはまる】が18ポイントも増加している。

### ⑬非行（触法）児童に対する支援及び矯正

<現在機能> n=385 <今後期待> n=385

選択項目	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	19	4.9%	4	1.0%
あてはまらない	46	11.9%	24	6.2%
あまりあてはまらない	115	29.9%	66	17.1%
ややあてはまる	116	30.1%	119	30.9%
あてはまる	64	16.6%	121	31.4%
かなりあてはまる	10	2.6%	40	10.4%
無回答	15	3.9%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホ-ムの役割（現在機能・今後期待）⑬非行（触法）児童に対する支援及び矯正

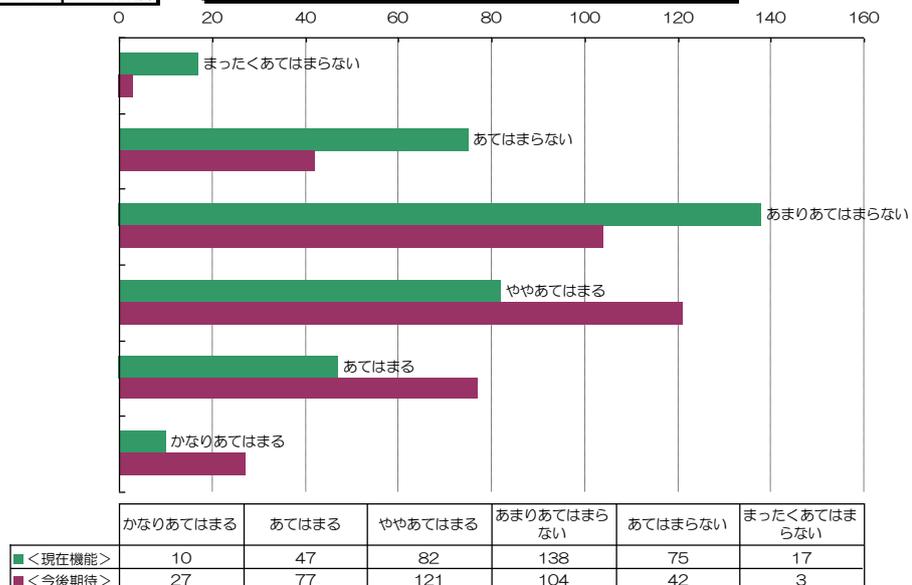


### ⑭家庭（家族）支援

<現在機能> n=385 <今後期待> n=385

選択項目	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	17	4.4%	3	0.8%
あてはまらない	75	19.5%	42	10.9%
あまりあてはまらない	138	35.8%	104	27.0%
ややあてはまる	82	21.3%	121	31.4%
あてはまる	47	12.2%	77	20.0%
かなりあてはまる	10	2.6%	27	7.0%
無回答	16	4.2%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホ-ムの役割（現在機能・今後期待）⑭家庭（家族）支援

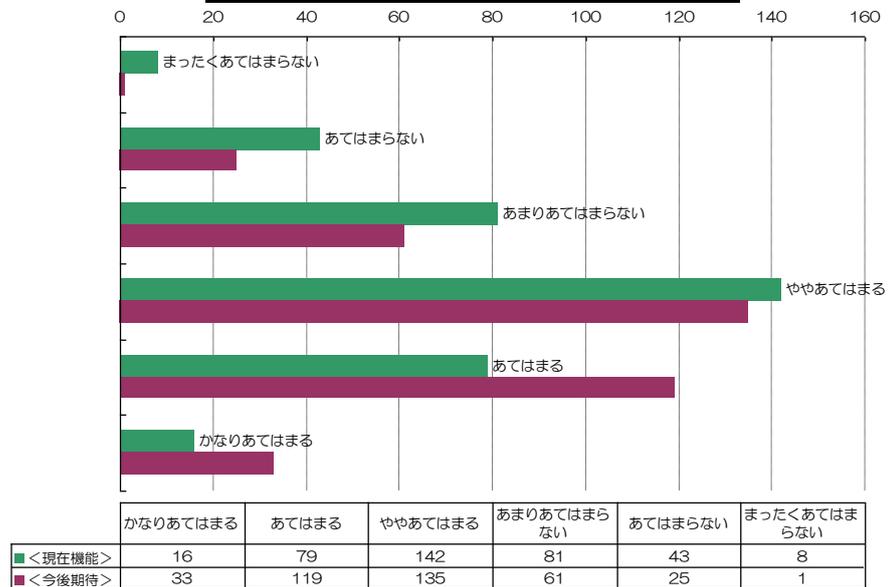


●非行児に対する支援・矯正でも障害児支援同様に、<現在機能>【あまりあてはまらない】が高くなっているが、<今後期待>においては【あてはまる】が約 15 ポイントの増加となっている。●家庭（家族）支援では、<現在機能>【あまりあてはまらない】が 35.8%と高い。<今後期待>では【肯定側】が増加しているものの【否定側】が約 4 割と減少幅が少ない。

### ⑮親権者の代替養育

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	8	2.1%	1	0.3%
あてはまらない	43	11.2%	25	6.5%
あまりあてはまらない	81	21.0%	61	15.8%
ややあてはまる	142	36.9%	135	35.1%
あてはまる	79	20.5%	119	30.9%
かなりあてはまる	16	4.2%	33	8.6%
無回答	16	4.2%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

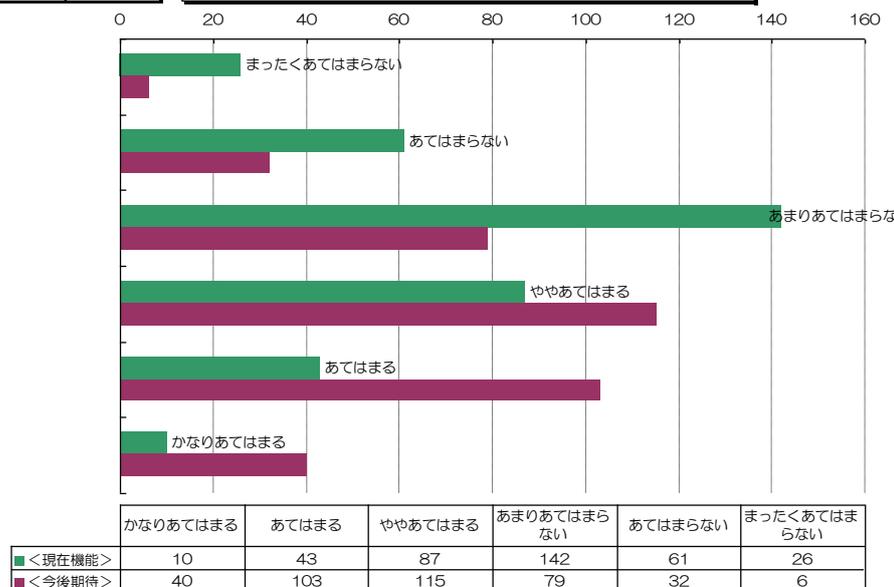
JEI-ムmの役割（現在機能・今後期待） ⑮親権者の代替養育



### ⑯一時保護所の補完機能

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	26	6.8%	6	1.6%
あてはまらない	61	15.8%	32	8.3%
あまりあてはまらない	142	36.9%	79	20.5%
ややあてはまる	87	22.6%	115	29.9%
あてはまる	43	11.2%	103	26.8%
かなりあてはまる	10	2.6%	40	10.4%
無回答	16	4.2%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEI-ムmの役割（現在機能・今後期待） ⑯一時保護所の補完機能

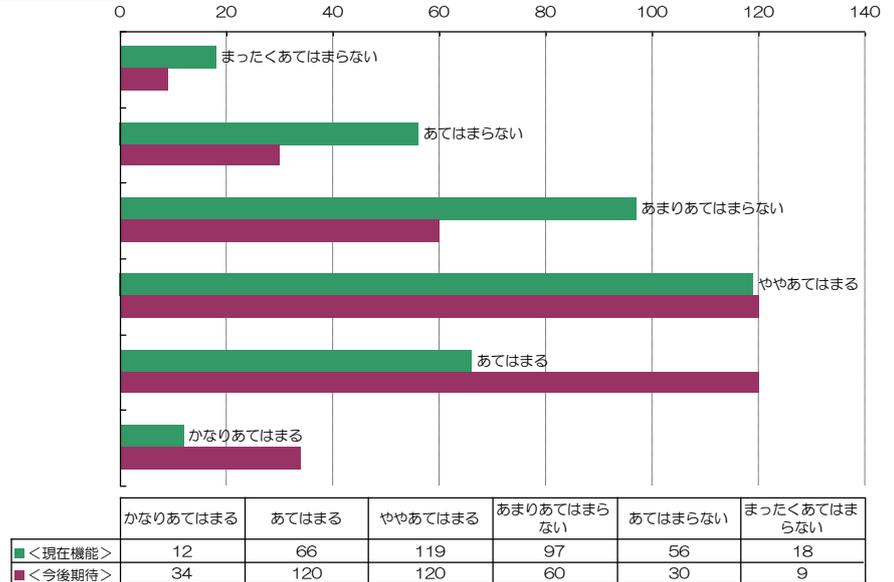


●親権者の代替養育では、＜今後期待＞で【あてはまる】が10ポイントの増加となっている。一時保護所の補完機能では、＜現在機能＞【否定側】が約6割に上るが＜今後期待＞では、【肯定側】が約7割となり、期待の大きさが伺える。

⑰DVや虐待に対する避難場所

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	18	4.7%	9	2.3%
あてはまらない	56	14.5%	30	7.8%
あまりあてはまらない	97	25.2%	60	15.6%
ややあてはまる	119	30.9%	120	31.2%
あてはまる	66	17.1%	120	31.2%
かなりあてはまる	12	3.1%	34	8.8%
無回答	17	4.4%	12	3.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%

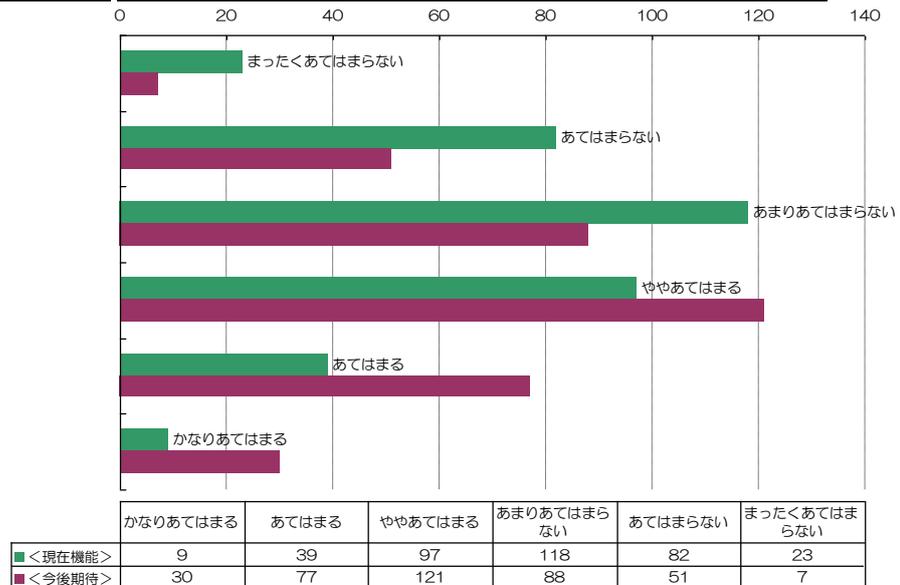
JEホムへの役割（現在機能・今後期待） ⑰DVや虐待に対する避難場所



⑱当該児にとっての一時的なレスパイト

選択項目	＜現在機能＞ n=385		＜今後期待＞ n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	23	6.0%	7	1.8%
あてはまらない	82	21.3%	51	13.2%
あまりあてはまらない	118	30.6%	88	22.9%
ややあてはまる	97	25.2%	121	31.4%
あてはまる	39	10.1%	77	20.0%
かなりあてはまる	9	2.3%	30	7.8%
無回答	17	4.4%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホムへの役割（現在機能・今後期待） ⑱当該児にとっての一時的なレスパイト

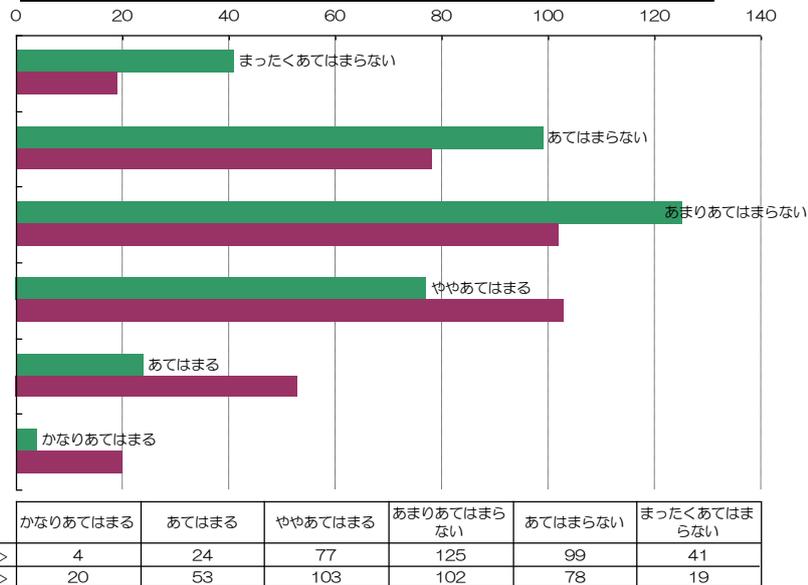


●DVや虐待に対する避難場所では、＜今後期待＞【あてはまる】が14ポイント上昇している。●当該児の一時的なレスパイトでは、＜現在機能＞【否定側】が57.9%だが、＜今後期待＞では37.8%まで低下している。

⑱親（家族）にとっての一時的なレスパイト

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	41	10.6%	19	4.9%
あてはまらない	99	25.7%	78	20.3%
あまりあてはまらない	125	32.5%	102	26.5%
ややあてはまる	77	20.0%	103	26.8%
あてはまる	24	6.2%	53	13.8%
かなりあてはまる	4	1.0%	20	5.2%
無回答	15	3.9%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

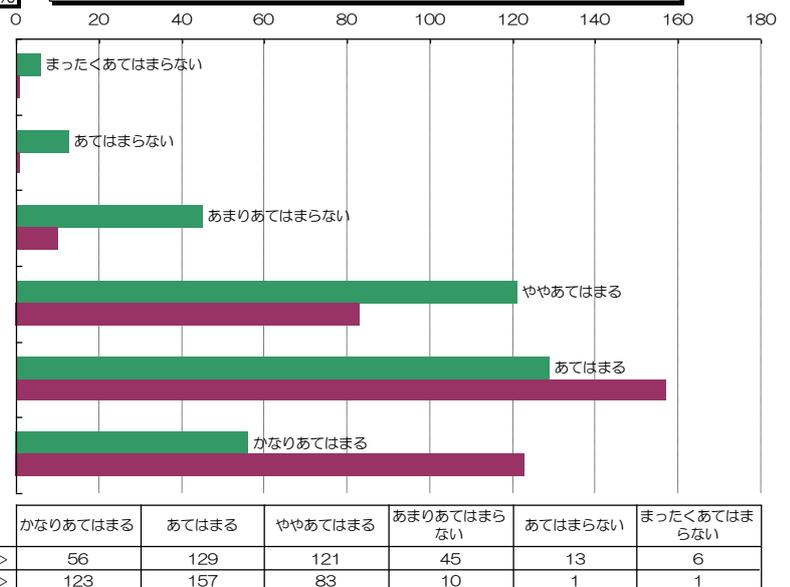
JEホームの役割（現在機能・今後期待）⑱親（家族）にとっての一時的なレスパイト



⑳アフターケア（退所後支援）

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	6	1.6%	1	0.3%
あてはまらない	13	3.4%	1	0.3%
あまりあてはまらない	45	11.7%	10	2.6%
ややあてはまる	121	31.4%	83	21.6%
あてはまる	129	33.5%	157	40.8%
かなりあてはまる	56	14.5%	123	31.9%
無回答	15	3.9%	10	2.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%

JEホームの役割（現在機能・今後期待）⑳アフターケア（退所後支援）

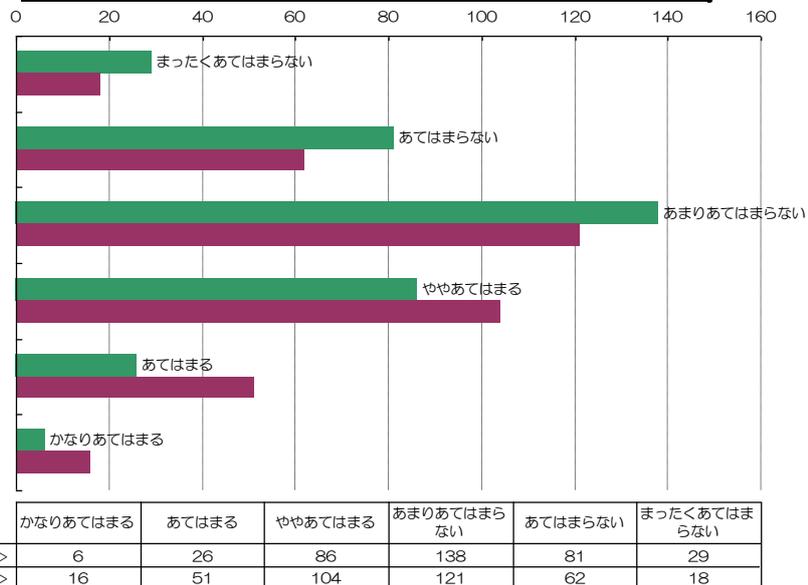


●親（家族）の一時的なレスパイトでは、<現在機能>【否定側】が68.8%、<今後期待>【否定側】も半数を超えている。●アフターケアでは、<現在機能>【肯定側】が約8割、<今後期待>【肯定側】も9割を超えている。

②1 要保護児童等のニーズの掘り出し

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	29	7.5%	18	4.7%
あてはまらない	81	21.0%	62	16.1%
あまりあてはまらない	138	35.8%	121	31.4%
ややあてはまる	86	22.3%	104	27.0%
あてはまる	26	6.8%	51	13.2%
かなりあてはまる	6	1.6%	16	4.2%
無回答	19	4.9%	13	3.4%
合計	385	100.0%	385	100.0%

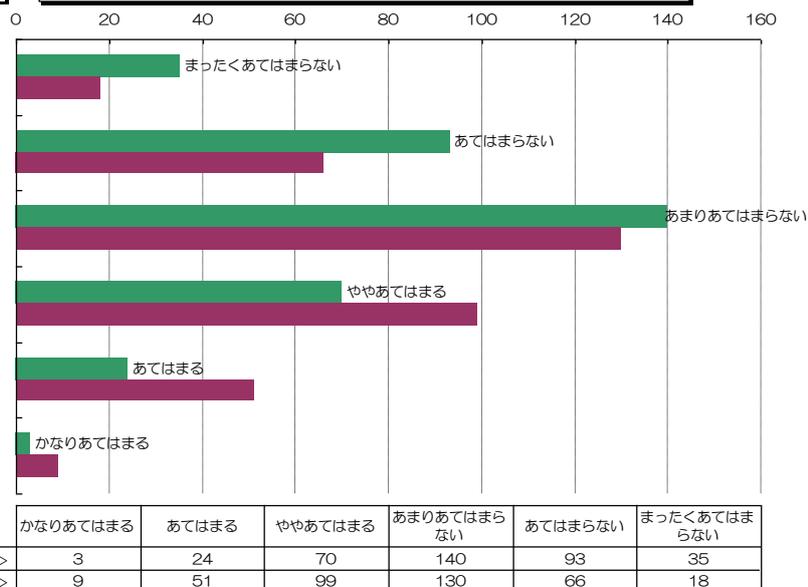
JEホ-ム役割（現在機能・今後期待） ②1 要保護児童等のニーズの掘り出し



②2 地域住民に向けた家庭相談支援

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	35	9.1%	18	4.7%
あてはまらない	93	24.2%	66	17.1%
あまりあてはまらない	140	36.4%	130	33.8%
ややあてはまる	70	18.2%	99	25.7%
あてはまる	24	6.2%	51	13.2%
かなりあてはまる	3	0.8%	9	2.3%
無回答	20	5.2%	12	3.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%

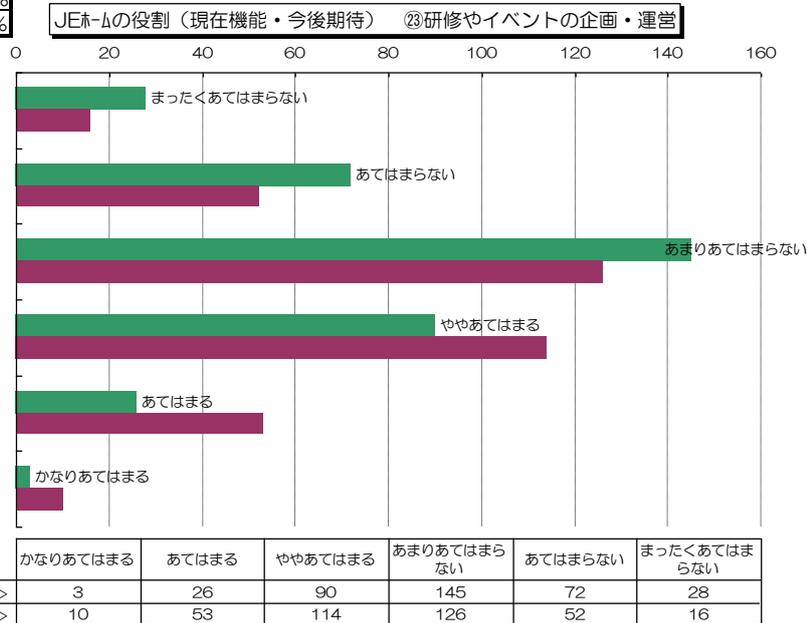
JEホ-ム役割（現在機能・今後期待） ②2 地域住民に向けた家庭相談支援



●要保護児童等のニーズの掘り出しでは、<現在機能>【否定側】が64.3%で、<今後期待>【否定側】でも半数を超え、期待感が薄い。●地域住民に向けた家庭相談支援も同様の傾向で、<現在機能>【否定側】が69.7%、<今後期待>【否定側】も55.6%となっている。

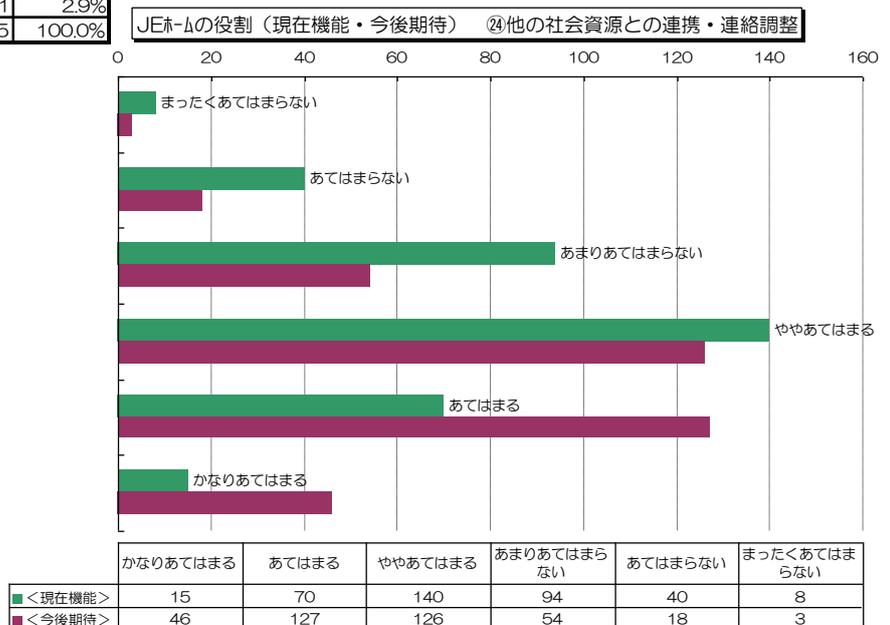
### ②③ 研修やイベントの企画・運営

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	28	7.3%	16	4.2%
あてはまらない	72	18.7%	52	13.5%
あまりあてはまらない	145	37.7%	126	32.7%
ややあてはまる	90	23.4%	114	29.6%
あてはまる	26	6.8%	53	13.8%
かなりあてはまる	3	0.8%	10	2.6%
無回答	21	5.5%	14	3.6%
合計	385	100.0%	385	100.0%



### ②④ 他の社会資源との連携・連絡調整

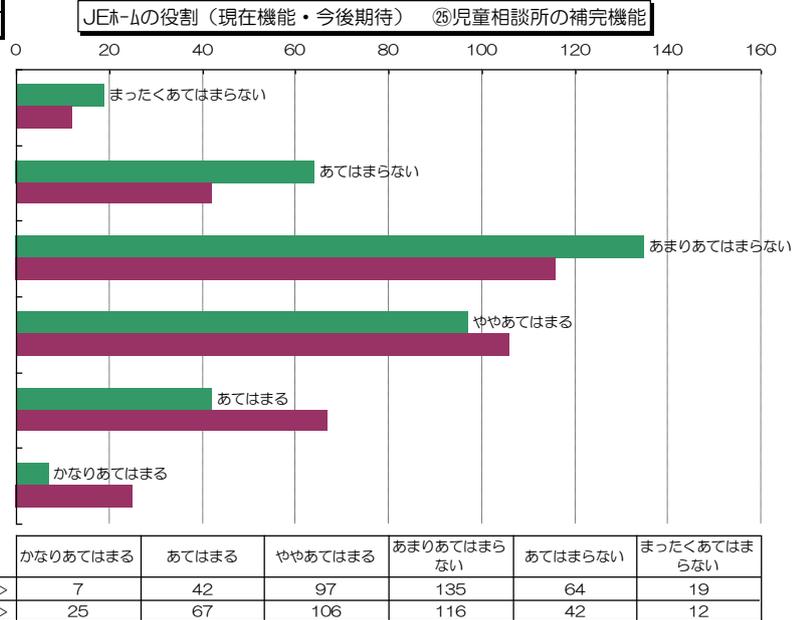
選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	8	2.1%	3	0.8%
あてはまらない	40	10.4%	18	4.7%
あまりあてはまらない	94	24.4%	54	14.0%
ややあてはまる	140	36.4%	126	32.7%
あてはまる	70	18.2%	127	33.0%
かなりあてはまる	15	3.9%	46	11.9%
無回答	18	4.7%	11	2.9%
合計	385	100.0%	385	100.0%



●研修やイベントの企画・運営では、<現在機能>【否定側】が63.7%、<今後期待>【否定側】も50.4%となった。●他の社会資源との連携・連絡調整では、<現在機能>【肯定側】が59.5%、<今後期待>【肯定側】の中でも、【あてはまる】が15ポイントの上昇となった。

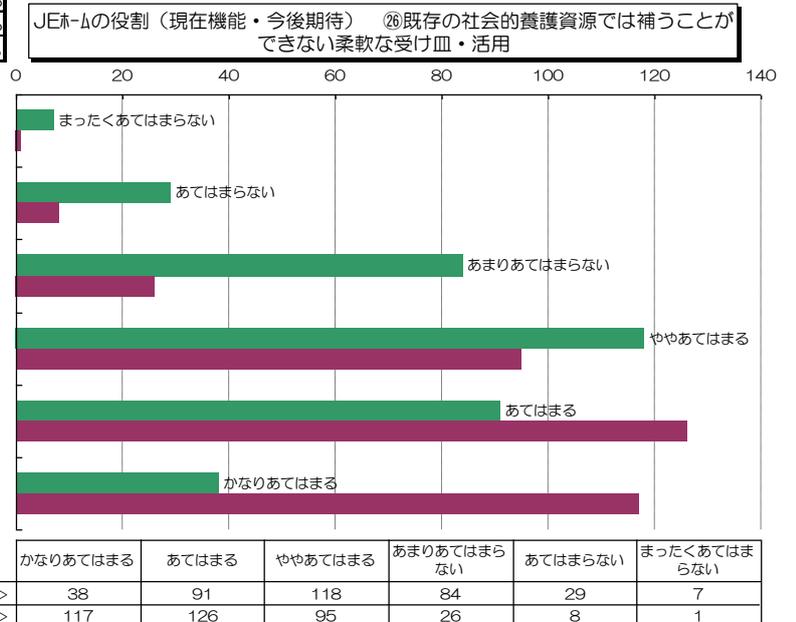
⑳ 児童相談所の補完機能

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	19	4.9%	12	3.1%
あてはまらない	64	16.6%	42	10.9%
あまりあてはまらない	135	35.1%	116	30.1%
ややあてはまる	97	25.2%	106	27.5%
あてはまる	42	10.9%	67	17.4%
かなりあてはまる	7	1.8%	25	6.5%
無回答	21	5.5%	17	4.4%
合計	385	100.0%	385	100.0%



㉕ 既存の社会的養護資源では補うことができない柔軟な受け皿・活用

選択項目	<現在機能> n=385		<今後期待> n=385	
	人数	構成比	人数	構成比
まったくあてはまらない	7	1.8%	1	0.3%
あてはまらない	29	7.5%	8	2.1%
あまりあてはまらない	84	21.8%	26	6.8%
ややあてはまる	118	30.6%	95	24.7%
あてはまる	91	23.6%	126	32.7%
かなりあてはまる	38	9.9%	117	30.4%
無回答	18	4.7%	12	3.1%
合計	385	100.0%	385	100.0%



●児童相談所の補完機能では、<現在機能>【否定側】が56.6%、<今後期待>【肯定側】は51.4%となった。●柔軟な受け皿・活用では、<現在機能>【肯定側】が64.1%で高く、<今後期待>【肯定側】も87.8%まで増加しており、特に【かなりあてはまる】が20ポイント上昇した。

### 3) 自立援助ホームの機能について、記載項目以外に今後期待する機能等

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 4年on1年Tnをしてありますが一度も利用させていただいた事がありませんでした。”就労サポート”のイメージが強いですが、アフターフォローしていただくと、お子さん達も安心して社会に関われるのかなと感じました。	(女性、30代、児童心理司)
○ 現状学籍を持たない高齢の子の行き先がありません。	(女性、40代、児童心理司)
○ 金銭管理の学習・補助	(女性、30代、児童心理司)
○ ホームに入る児童は保護者の支援を望めないケースが多いので、退所後も実家的な関わりを持っていただけたらと思います。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 生活能力を伸ばせるように働きかけたい。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ 18才に到達後自立がむずかしい児童の受け皿として、入所人数を増やしてほしい。18で自立が難しい子は様々な困難を抱えているため、それに対応できる人材が増えたい。	(女性、30代、児童心理司)
○ 一度入所しても定着しない子が多いので、原因と対応策を検討してほしい。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 特になし	(女性、40代、児童福祉司)
○ 学齢後期の発達障害のある児と母の関係不調や暴言暴力が常態化しつつある世帯についての利用可能な場所として、地活等の利用ではなく、児の自立に向けての支援、家族にとってレスパイトの場として活用できること。	(女性、50代、その他)
○ 日常生活の相談支援は今後も期待している。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 児童が社会に出た後のフォローも求められている。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 頼れる家族がいない児が多いから。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 愛の手帳に該当しないが、能力に弱さありフォロー必要なケースの受け入れをおねがいしたい。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 中学校卒業後、高校進学できなかった児童(中退含む)のための生活訓練(支援)就労訓練(支援)の機能を担える施設があると良いと思います。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 社会的養護の多様な形の一つとして求められる役割は大きい、自立の困難な児童に対して有効な生活場所だとする。	(男性、40代、児童相談員)
○ 養護ケースの就労、自立支援機能を十分果たせた後に他機能を拡大できればよいと思います。就労目的以外に大学・専門学校へ進学する児童の生活拠点、自立支援を担える場があればよいとは思いますが経済的支援がネック。(プラス成人年齢のケースの支援の根拠)になるかと思えます。	(女性、50代、児童心理司)
○ 高校、大学等、就労支援機能があれば良いと思っております。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 施設との関係悪化で、施設内で就労支援が行えない場合の仕切りなおし、就労支援もありがたいと思います。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 短期の一時保ごでの立てなおし、ふり返りにも活用できるとありがたいです。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 自立援助ホームから大学等に通えるのは個々の子どもにとってはよいが、長期契約利用となり、他児の入所が難しくなるのではないかと。自立援助ホームに期待するのではなく社会のシステム作りが必要だとします。	(女性、40代、児童心理司)
○ 一時保護的な、高校生年齢の受け入れ。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 多様化するニーズのなか、通学したい児が多くなった気がします。また、LGBTのニーズも増えているので、対応しうる受け皿が必要かと。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 高校に通学しながら(高校を中退しなくても、卒業まで通学。)バイトをして、入寮費を払い高卒後もそのまま生活しながら就労又は進学できる場としての機能。(高校年齢で児童養護施設に入所することが実質的には難しいため。)	(女性、40代、児童心理司)
○ やはり、既存の社会資源では補うことができない柔軟な受け皿としての役割が多くなっていくのかもしれない。	(男性、30代、その他)
○ 就労自立支援以外の社会的自立ができない高年齢児童の支援機能、高校通学継続や精神的自立ができない児童を対象としたホーム。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 未就労児の就労支援やその後の定着支援など、すでにやっていることはたくさんあると思うが、それだけでなく、社会的経験の不足なども懸念されることであると思うので、そういった支援の充実を図っていく必要があると思う。そのためにホームを増やすこと、体制の整備が大きな課題になると思う。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ ・中卒または高校中退児童に対し、就職での自立だけでなく再受験＝高卒認定を得られる様に(目指す)支援がJEホームでできれば良い。 ・児童ようこ施設不応の児童に対する支援(例えば、JEホームから高校へ通学)があると良い。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 障害児者における地域生活支援拠点となる可能性	(男性、40代、児童相談員)
○ 親がわり、親身に相談を受けてくれる機関(大人)	(男性、60代以上、児童福祉司)
○ 高等教育を受ける期間も居られるとよいです。児の将来が広がると思っています。	(女性、40代、児童福祉司)
○ JEホームでの研修、見学等	(男性、20代、児童福祉司)
○ どこにも行き場のない高齢児の受け皿となって欲しいが、条件の多いところが多く柔軟な対応は難しい。	(女性、30代、児童心理司)
○ 障害のある児が受容できないままいる場合もあり、障害サービスにつなげられるような機能も欲しい。(24と同じ?) (やっているところもあるが、もっと欲しい)	(女性、30代、児童心理司)
○ 精神疾患で病識がないとか、障害受容があまりないといった制度のすきまにいて難しい子の受け皿、つなぐににくい子の居場所 (そのためには、ルール、対応の柔軟性求められ、運営は難しい) 就労と居場所がくっついている貴のような機能(社会参加の訓練)	(女性、40代、児童福祉司)
○ ・役所の手続き(年金、健康保険、母子手帳を出してもらう方法等)を教えてください。 ・病院の受診の仕方を身につけて欲しい	(男性、40代、児童心理司)
○ 現状の機能を維持していただきたい。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 頼れる、信頼できる大人として、何かあった時の相談にのってくれたり、困った時に話ができたりする存在だといいと思います	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 高齢の養育保護児童の受け皿が枯渇しており、行き場所・生活の場所がない。	(男性、30代、管理職(課長、係長))
○ 特にございません。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 進学を希望しているあるいは、進学している児童養護施設出身者の支援。	(女性、40代、児童心理司)
○ 概ね記載のとおり	(男性、30代、児童福祉司)
○ なし	(男性、30代、児童福祉司)
○ 知的や発達に課題がある児が増えています。グループホームが不足する中で、自力で生活できるようになるための施設と自立をつなぐ役割、学校と就労をつないでいく役割を期待しています。	(女性、30代、児童相談員)
○ なし	(男性、40代、児童福祉司)
○ 特になし	(男性、30代、児童福祉司)
○ 特になし	(男性、40代、児童福祉司)
○ 高校に通学しながらの利用	(男性、30代、児童福祉司)

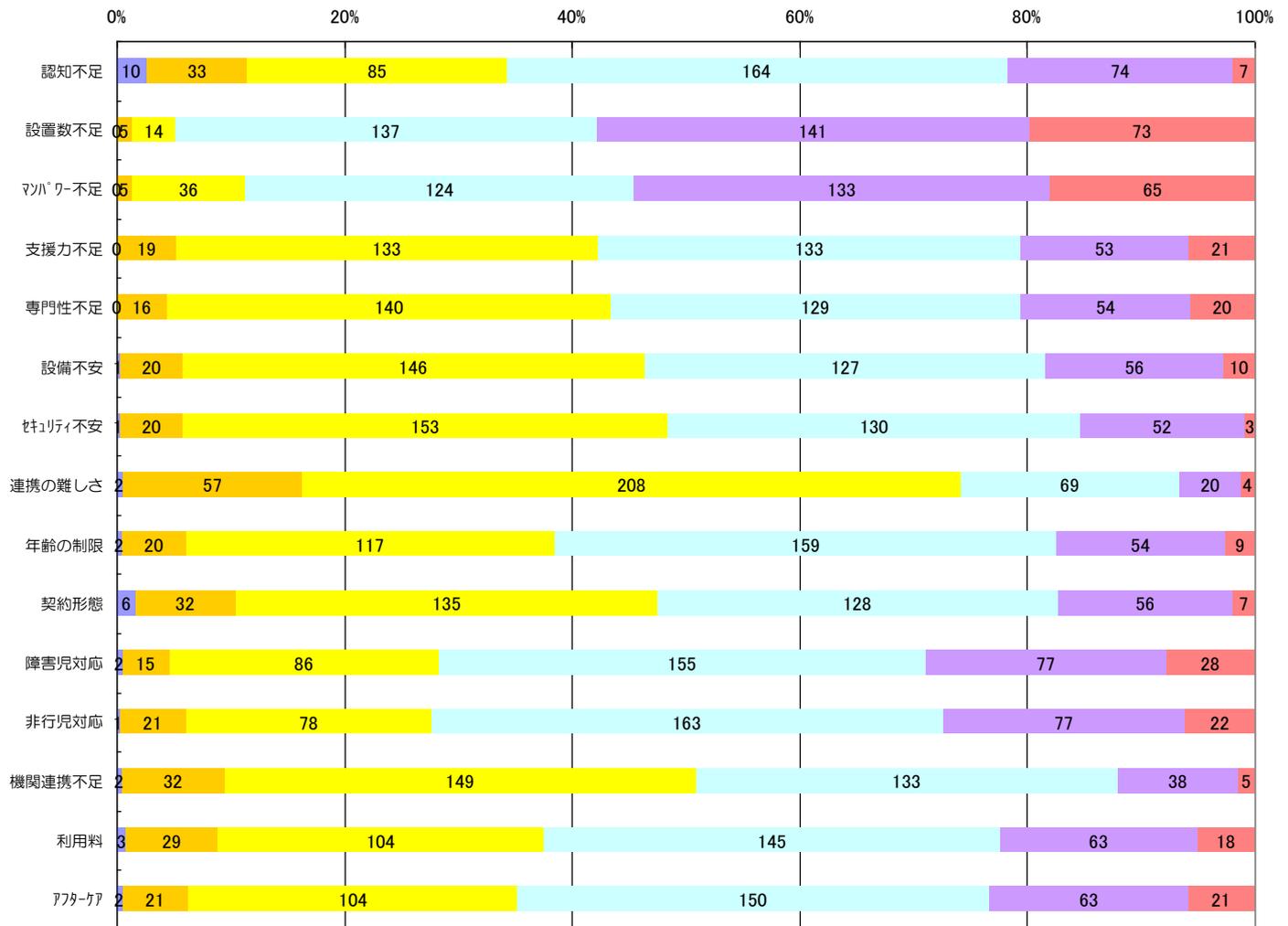
●記載項目以外に今後期待する機能では、【高齢児や障害児への対応強化】や【児童が社会に出た後の継続支援】、【高校進学が出来なかった(中退含む)児童のための生活訓練】、【多様化するニーズへの対応】などのほか、【長期利用による新規受入不足の問題】や【親代わりに相談できる機関】、【就労と居場所機能・体制の整備】など、自立援助ホームの増設や多機能化といったニーズなどが寄せられている。

#### 4) 自立援助ホームの課題について

\* 一覧集計

##### JEホームの課題

選択項目	認知不足	設置数不足	マンパワー不足	支援力不足	専門性不足	設備不安	セキュリティ不安	連携の難しさ	年齢の制限	契約形態	障害児対応	非行児対応	機関連携不足	利用料	アフターケア
まったくあてはまらない	10	0	0	0	0	1	1	2	2	6	2	1	2	3	2
あてはまらない	33	5	5	19	16	20	20	57	20	32	15	21	32	29	21
あまりあてはまらない	85	14	36	133	140	146	153	208	117	135	86	78	149	104	104
ややあてはまる	164	137	124	133	129	127	130	69	159	128	155	163	133	145	150
あてはまる	74	141	133	53	54	56	52	20	54	56	77	77	38	63	63
かなりあてはまる	7	73	65	21	20	10	3	4	9	7	28	22	5	18	21
無回答	12	15	22	26	26	25	26	25	24	21	22	23	26	23	24
合計	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385	385



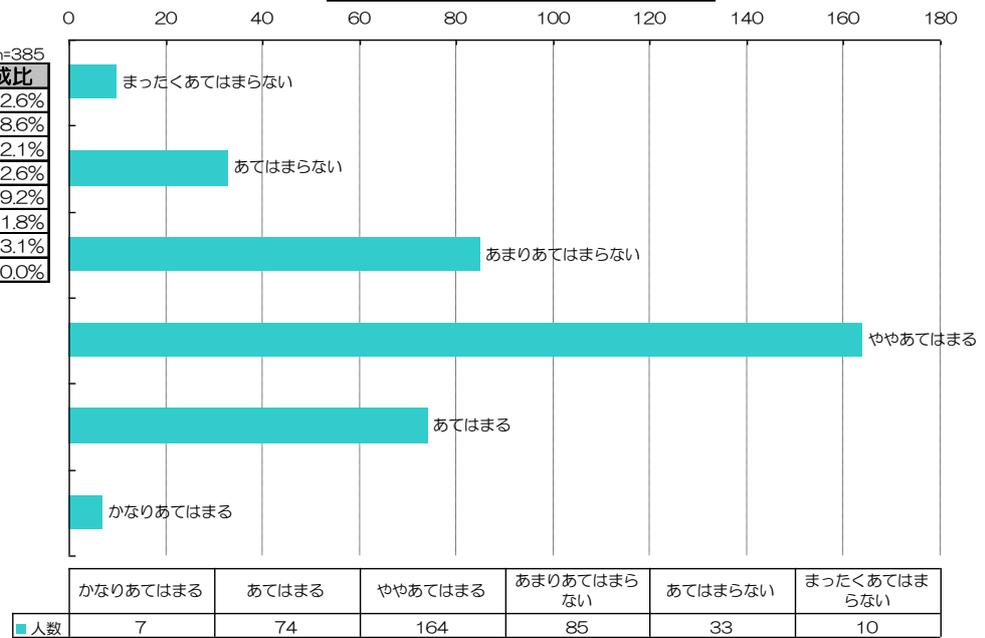
	アフターケア	利用料	機関連携不足	非行児対応	障害児対応	契約形態	年齢の制限	連携の難しさ	セキュリティ不安	設備不安	専門性不足	支援力不足	マンパワー不足	設置数不足	認知不足
かなりあてはまる	21	18	5	22	28	7	9	4	3	10	20	21	65	73	7
あてはまる	63	63	38	77	77	56	54	20	52	56	54	53	133	141	74
ややあてはまる	150	145	133	163	155	128	159	69	130	127	129	133	124	137	164
あまりあてはまらない	104	104	149	78	86	135	117	208	153	146	140	133	36	14	85
あてはまらない	21	29	32	21	15	32	20	57	20	20	16	19	5	5	33
まったくあてはまらない	2	3	2	1	2	6	2	2	1	1	0	0	0	0	10

自立援助ホームの課題では、【連携不足】や【社会連携不足】で「あてはまらない」が半数を超えており、連携については、あまり問題視されていない印象となる。その他の課題については、いずれも「あてはまる」が多くなっている。特に【不認知】【設置数不足】【マンパワー不足】【障害児対応】【非行児対応】【利用料】【アフターケア】は、6割を超えているため、問題を感じているとともに、＜改善ニーズ＞となって28%いる状況が確認できる。\*次ページより各項目を掲載した。

JEホームの課題 ①存在が知られていない

①存在が知られていない

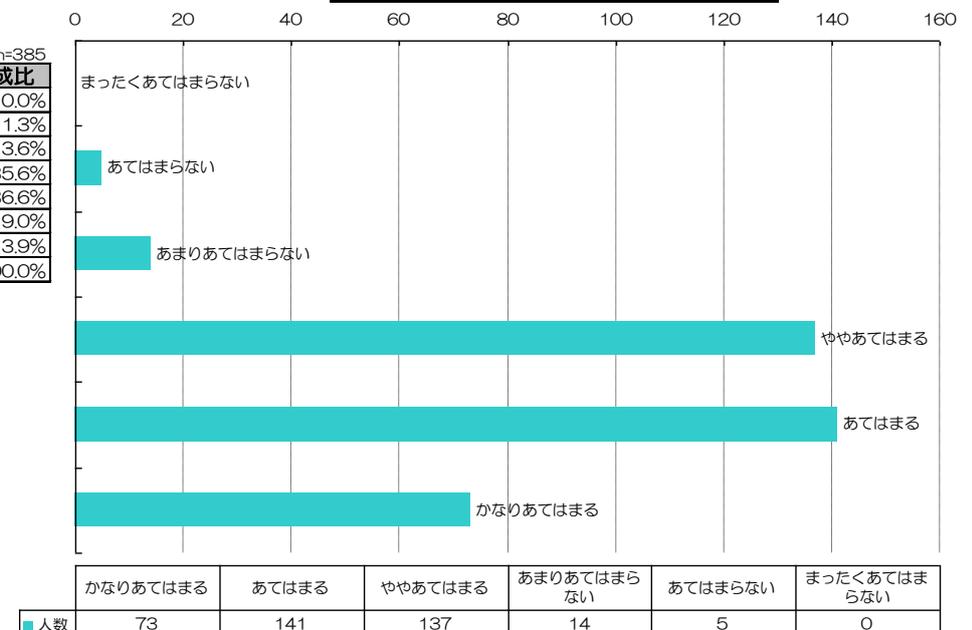
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	10	2.6%
あてはまらない	33	8.6%
あまりあてはまらない	85	22.1%
ややあてはまる	164	42.6%
あてはまる	74	19.2%
かなりあてはまる	7	1.8%
無回答	12	3.1%
合計	385	100.0%



JEホームの課題 ②設置数（児童受入数）の不足

②設置数（児童受入数）の不足

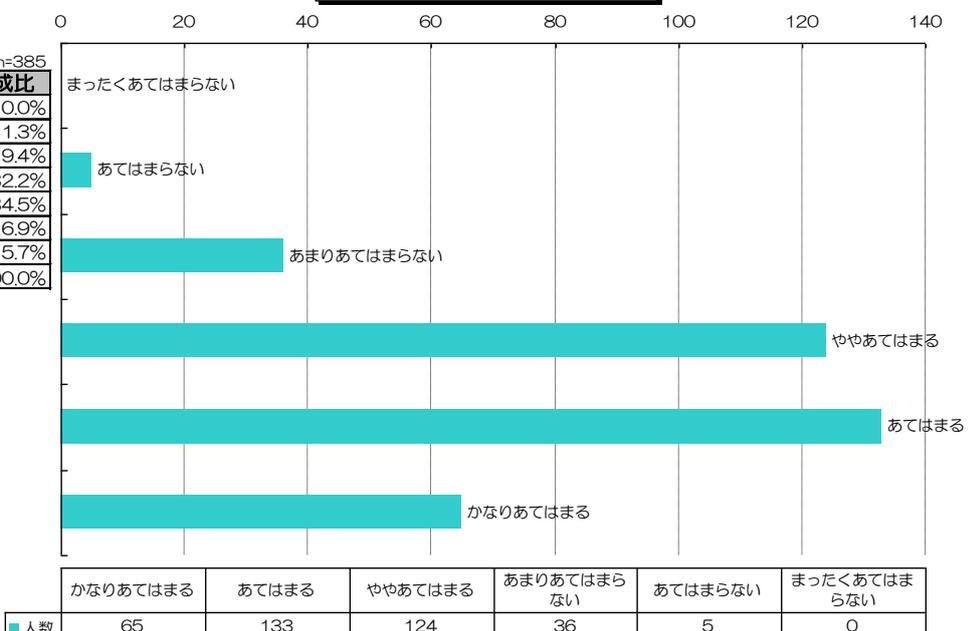
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	5	1.3%
あまりあてはまらない	14	3.6%
ややあてはまる	137	35.6%
あてはまる	141	36.6%
かなりあてはまる	73	19.0%
無回答	15	3.9%
合計	385	100.0%



JEホームの課題 ③マンパワーの不足

③マンパワーの不足

選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	5	1.3%
あまりあてはまらない	36	9.4%
ややあてはまる	124	32.2%
あてはまる	133	34.5%
かなりあてはまる	65	16.9%
無回答	22	5.7%
合計	385	100.0%

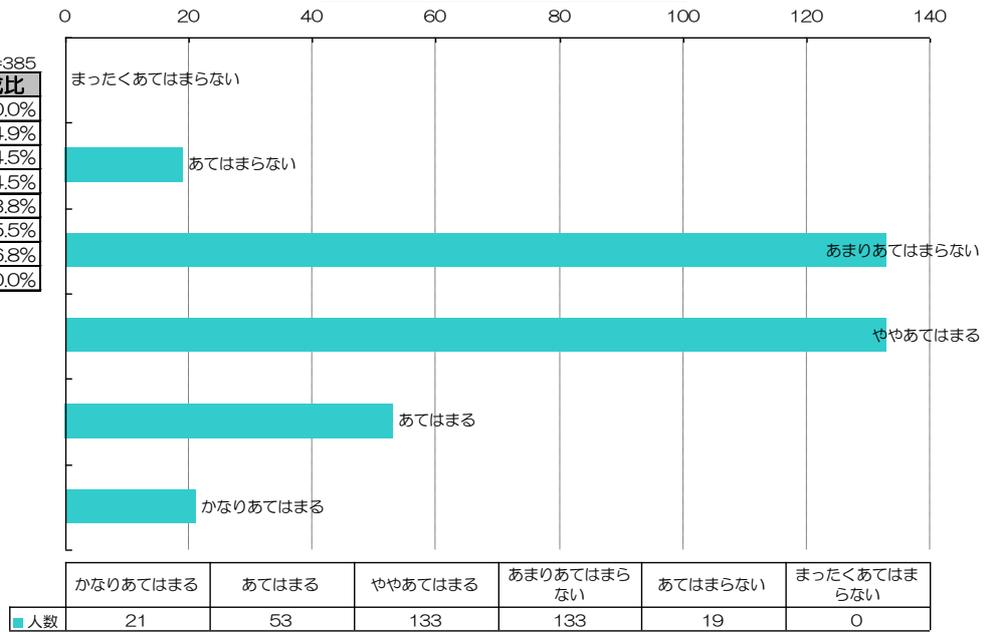


JEホム-ム課題 ④職員の支援力の不足

④職員の支援力の不足

n=385

選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	19	4.9%
あまりあてはまらない	133	34.5%
ややあてはまる	133	34.5%
あてはまる	53	13.8%
かなりあてはまる	21	5.5%
無回答	26	6.8%
合計	385	100.0%

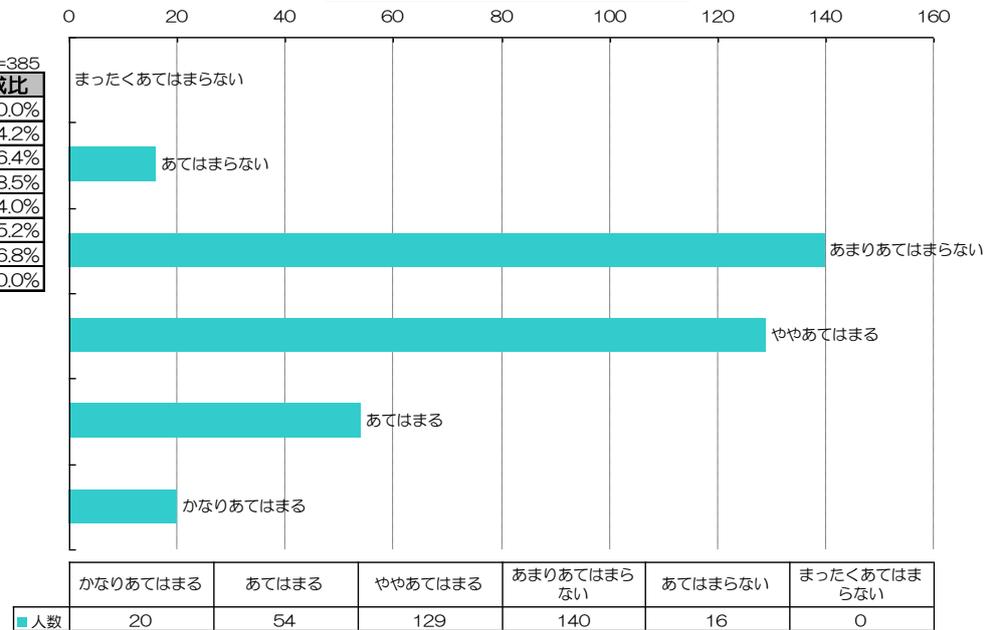


JEホム-ム課題 ⑤職員の専門性の不足

⑤職員の専門性の不足

n=385

選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	0	0.0%
あてはまらない	16	4.2%
あまりあてはまらない	140	36.4%
ややあてはまる	129	33.5%
あてはまる	54	14.0%
かなりあてはまる	20	5.2%
無回答	26	6.8%
合計	385	100.0%

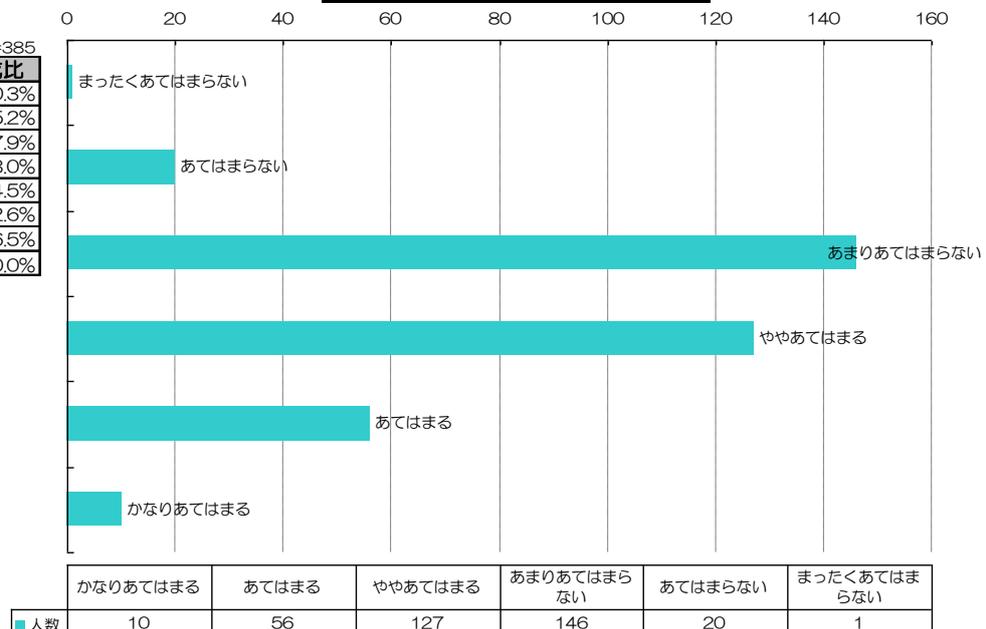


JEホム-ム課題 ⑥設備（ハード面）の不安

⑥設備（ハード面）の不安

n=385

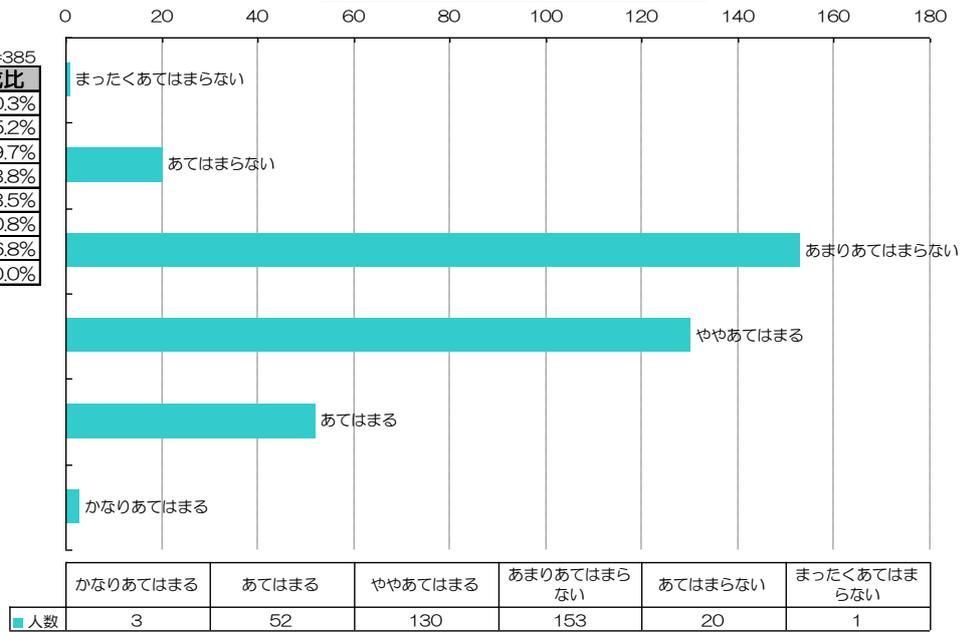
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	1	0.3%
あてはまらない	20	5.2%
あまりあてはまらない	146	37.9%
ややあてはまる	127	33.0%
あてはまる	56	14.5%
かなりあてはまる	10	2.6%
無回答	25	6.5%
合計	385	100.0%



JEホ-ム課題 ⑦セキュリティ面の不安

⑦セキュリティ面の不安

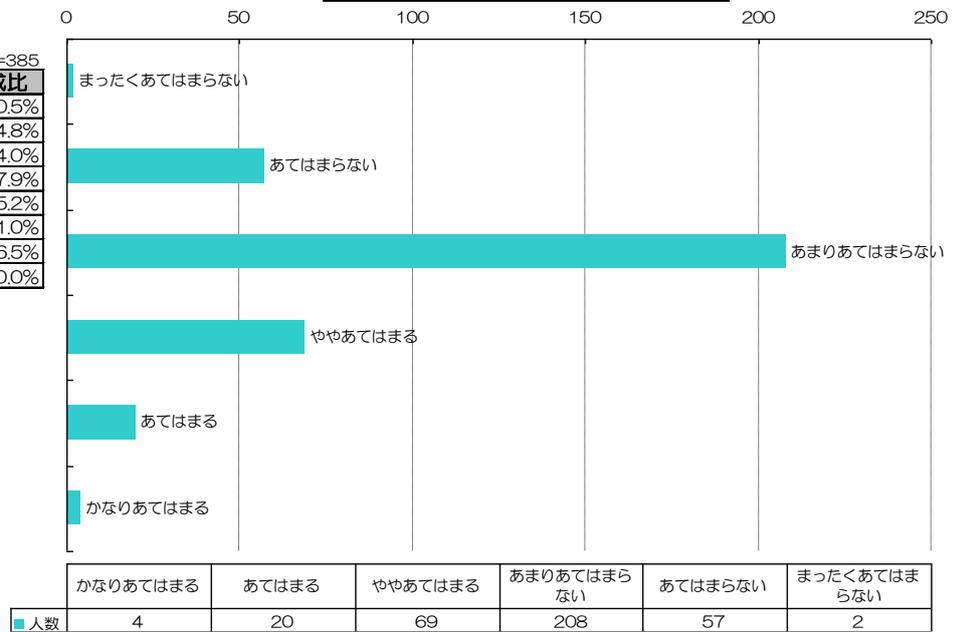
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	1	0.3%
あてはまらない	20	5.2%
あまりあてはまらない	153	39.7%
ややあてはまる	130	33.8%
あてはまる	52	13.5%
かなりあてはまる	3	0.8%
無回答	26	6.8%
合計	385	100.0%



JEホ-ム課題 ⑧緊密な連携が取りづらい

⑧緊密な連携が取りづらい

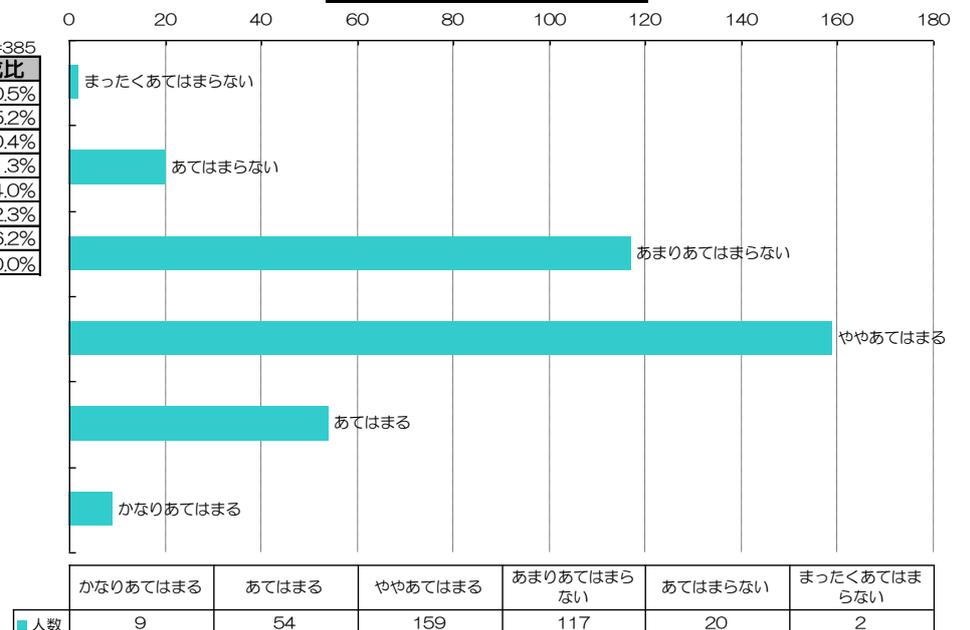
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%
あてはまらない	57	14.8%
あまりあてはまらない	208	54.0%
ややあてはまる	69	17.9%
あてはまる	20	5.2%
かなりあてはまる	4	1.0%
無回答	25	6.5%
合計	385	100.0%



JEホ-ム課題 ⑨入所年齢の制限

⑨入所年齢の制限

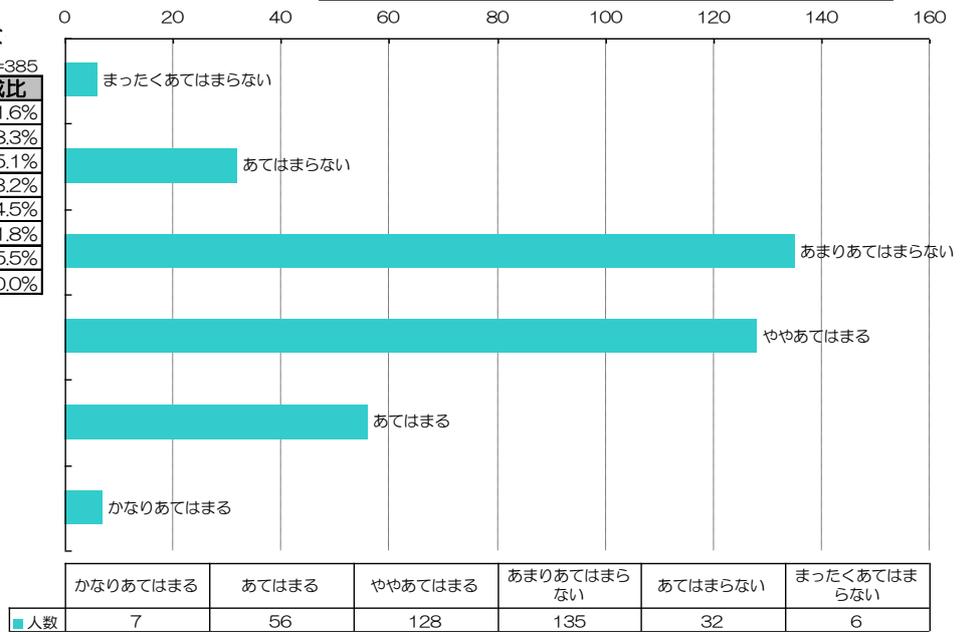
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%
あてはまらない	20	5.2%
あまりあてはまらない	117	30.4%
ややあてはまる	159	41.3%
あてはまる	54	14.0%
かなりあてはまる	9	2.3%
無回答	24	6.2%
合計	385	100.0%



⑩入所の扱いが措置ではなく契約にな

n=385

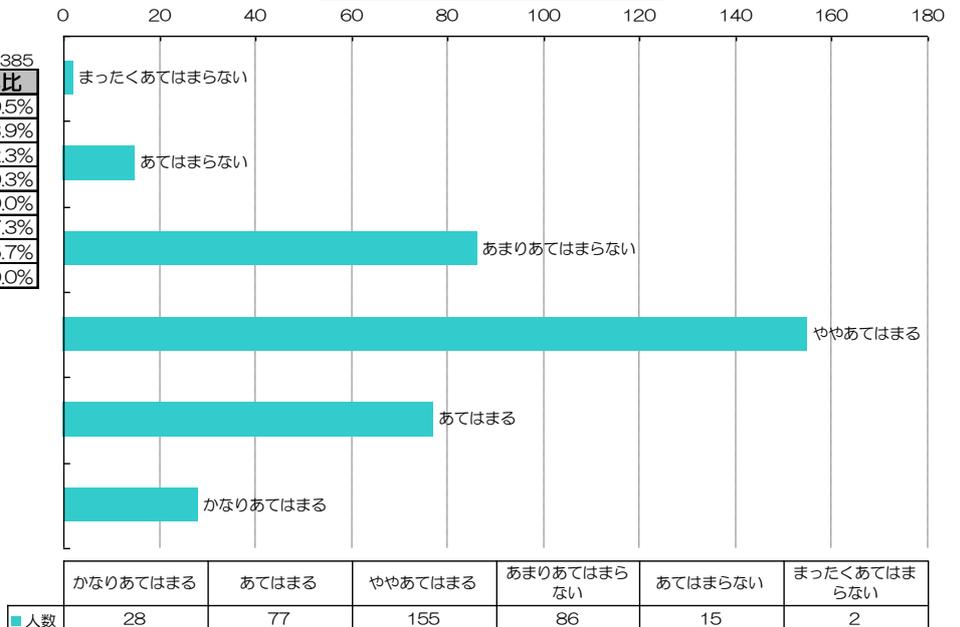
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	6	1.6%
あてはまらない	32	8.3%
あまりあてはまらない	135	35.1%
ややあてはまる	128	33.2%
あてはまる	56	14.5%
かなりあてはまる	7	1.8%
無回答	21	5.5%
合計	385	100.0%



⑪障害児の受入対応

n=385

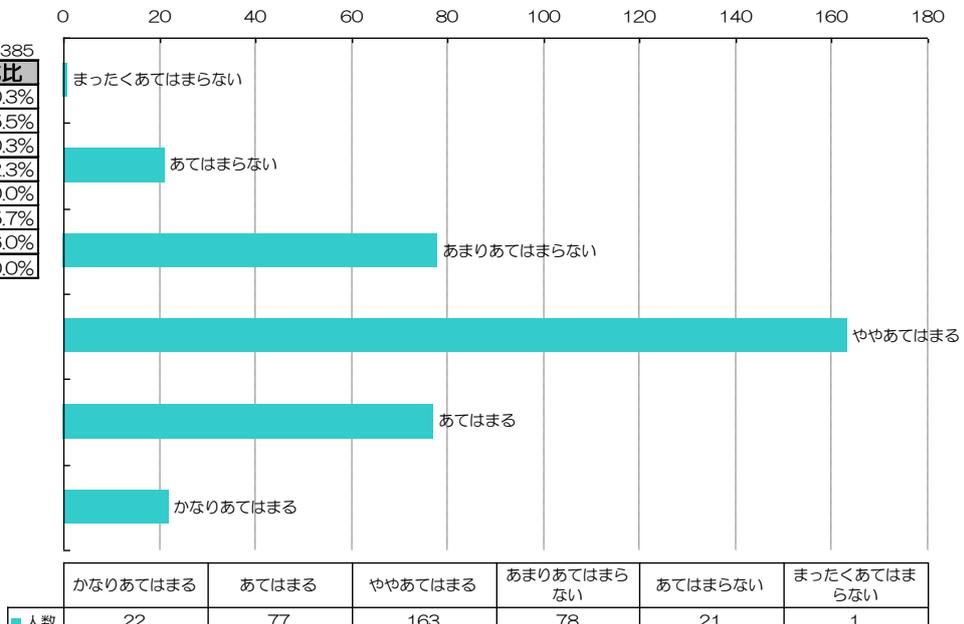
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%
あてはまらない	15	3.9%
あまりあてはまらない	86	22.3%
ややあてはまる	155	40.3%
あてはまる	77	20.0%
かなりあてはまる	28	7.3%
無回答	22	5.7%
合計	385	100.0%



⑫非行（触法）児童の受入対応

n=385

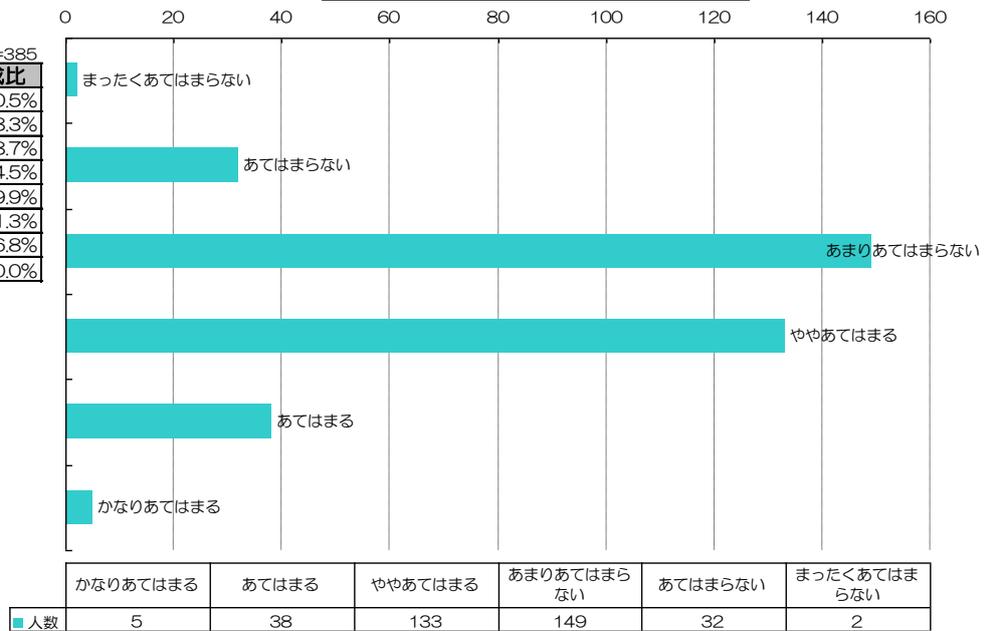
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	1	0.3%
あてはまらない	21	5.5%
あまりあてはまらない	78	20.3%
ややあてはまる	163	42.3%
あてはまる	77	20.0%
かなりあてはまる	22	5.7%
無回答	23	6.0%
合計	385	100.0%



JEホームの課題 ⑬他の社会資源との連携不足

⑬他の社会資源との連携不足

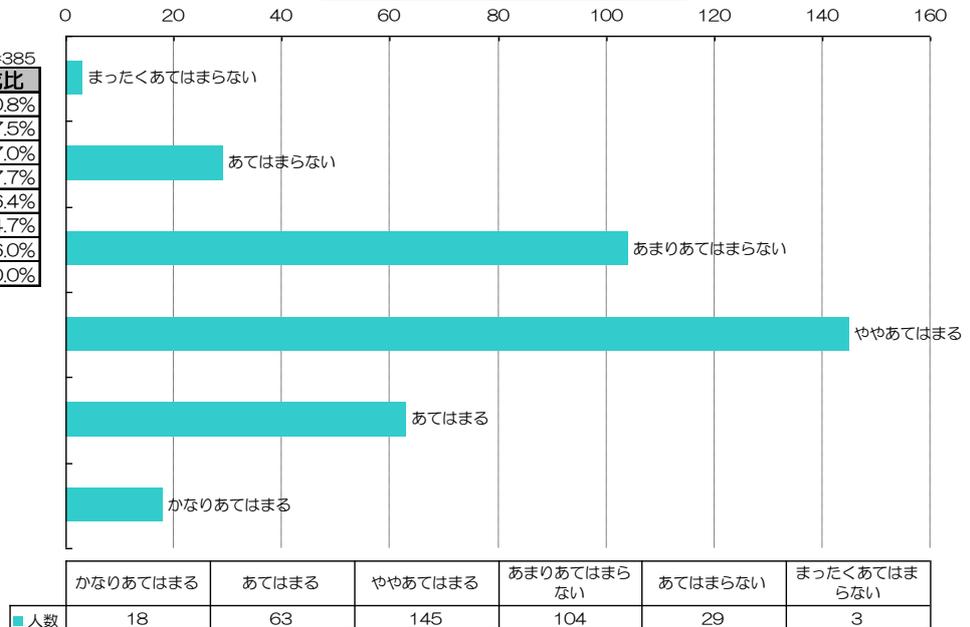
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%
あてはまらない	32	8.3%
あまりあてはまらない	149	38.7%
ややあてはまる	133	34.5%
あてはまる	38	9.9%
かなりあてはまる	5	1.3%
無回答	26	6.8%
合計	385	100.0%



JEホームの課題 ⑭ホーム利用料の発生

⑭ホーム利用料の発生

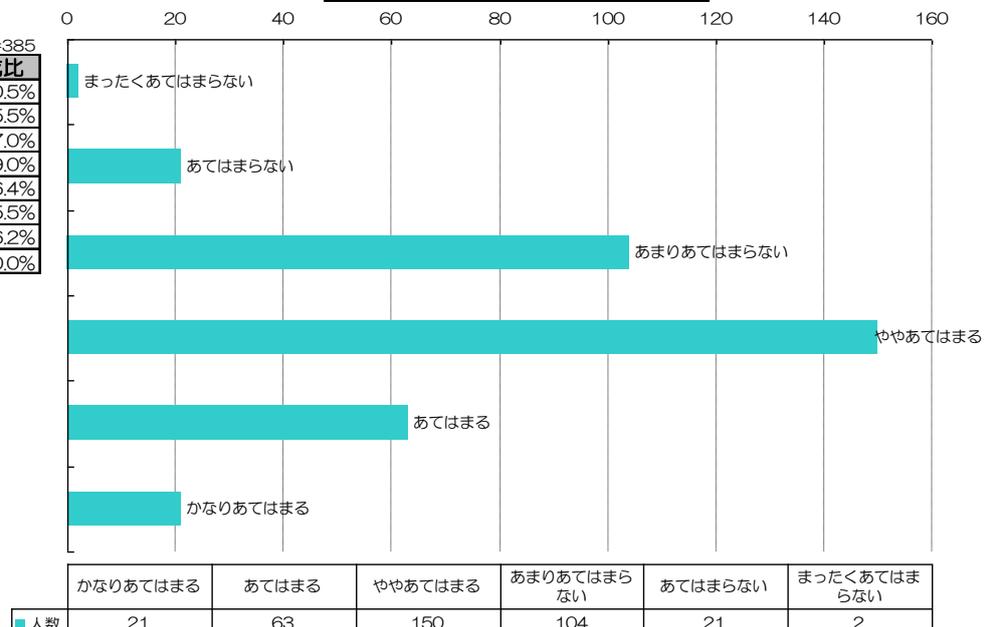
選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	3	0.8%
あてはまらない	29	7.5%
あまりあてはまらない	104	27.0%
ややあてはまる	145	37.7%
あてはまる	63	16.4%
かなりあてはまる	18	4.7%
無回答	23	6.0%
合計	385	100.0%



JEホームの課題 ⑮アフターケアの対応力

⑮アフターケアの対応力

選択項目	人数	構成比
まったくあてはまらない	2	0.5%
あてはまらない	21	5.5%
あまりあてはまらない	104	27.0%
ややあてはまる	150	39.0%
あてはまる	63	16.4%
かなりあてはまる	21	5.5%
無回答	24	6.2%
合計	385	100.0%



## 5) 自立援助ホームの課題について、記載項目以外の課題や課題を解決するために必要な事項等

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ ます、絶対数が少ないです。行き場のない高年齢児の課題は大きく、まず安心して過ごせる場がないと、その後の自立支援、につながりません。現在の各ホームはともよくやっていたらいいと思います。マンパワーが充分でなく、スタッフの方の負担はとも大きいと思います。余裕がないと質の高い支援は展開できないと思います。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ ホーム内での性的なトラブル	(女性、30代、児童心理司)
○ 数が少ない中では、いろいろなケースを受け入れてほしい。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 能力的に厳しい場合もあるが居場所としてだけでなく、経済的な「自立」を目指して支援をしてほしい。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 横浜市内の女子が入所可能なJEホームの少なさ。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ 数をもっと増やしてほしいです。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 男女比の差で入所が難しい時がある	(女性、20代、児童福祉司)
○ 対象児・者の対応の難しさには高い専門性が求められると思うが、今必要とされているだけの人材数を獲得していくには計画的な養成が求められるのではないかと。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ ホームにより支援力にムラがあるため、ホーム間の連絡や、情報共有があると良い。少人数性も良いが、子によっては大人数で、職員が多い施設があっても良いかと思う。	(女性、30代、児童心理司)
○ 特にありません	(女性、40代、児童心理司)
○ 柔軟性。相談したいケースがあっても空きがあっても、ホームのやり方をかえないといわれてしまうと、実際に入所させられるケースがなくなってしまふ。そのくらい、子どもの抱える事情や状況が様々であり、(当然ある程度のルールは必要なことは承知だが) ホームには多様なニーズをうけとめていただくため、あまり多くのことを子に求めず、柔軟に対応していただきたい。	(女性、50代、児童相談員)
○ 特になし	(女性、40代、児童福祉司)
○ 障害児の受入対応	(女性、20代、児童福祉司)
○ 今後、発達障害・虐待・不適切養育で、思春期に在宅での問題が大きくなり、社会にでて自立していく力がつかないまま、家族での生活ができなくなって、JEホームで育て直しや治療的対応が必要になるケースもふえてくると思う。専門的視点(発達、トラウマ、愛着)からのアセスメントや関わり・ハード面の工夫(個室や集団生活の構造づくりなど)が求められると思う。心理職も必要。	(女性、50代、児童心理司)
○ 多くのホームがあれば、それぞれのホームで多様なルールや得意とするタイプの子があってもニーズに応えられると思う。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 親子関係不調や、家庭内暴力、不登校、ひきこもり、など高年齢の処遇に困難を極めています。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 職員には、児童の言葉を聴く支中反力を養ってほしい。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 事前に入所前の宿泊体験が決まられており、しかも宿泊の費用がかかるところがある。保護者からも見難いお金の出どころがない児童の扱いが困難である。	(女性、60代以上、児童福祉司)
○ (11) 障害児が何を指しているかわからないのですが、このところ高年齢児の発達障害からくる生活のしづらさや、親子関係の不調が非常に多い印象があるので、発達障害系のお子さんの受入に特化した自立援助ホームがあるとよいと思います。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ ホームの個性は大事だがホームによって運営や指導がずいぶん違うと感じる。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 入所する時に児童相談所を経由する以外に区市町村の児童家庭相談窓口でも相談できるようにしてほしいと思う。	(女性、40代、児童福祉司)
○ アフターケアに関わるマンパワーが圧倒的に足りないと思う	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 現状でも課題への対応にかなり努力されていると思います。	(男性、50代、児童福祉司)
○ 法制備の見直しとJEホームの弾力的な運営をできるようにしていく。	(男性、40代、児童相談員)
○ 利用する人にとって、自立前のステップであれば自由に向ける場所である必要に感じられる。自立後の相談や支援できる人的余裕があること。	(女性、40代、児童心理司)
○ 絶対的にマンパワーが不足している。毎年、退所者が増加していくため、アフターケアの対応力・体制強化が必要である。ステップハウスの公的制度化は必須。	(男性、50代、管理職(課長、係長))
○ ・他県でJEホームの活動に関わっている人が居ます。経済的なことなど運営のご苦労が感じられます。経済的なことを気にせず、職員の皆さんが自立援助に専念できることが求められます。	(女性、50代、児童相談員)
○ 就労までのつなぎとなる研修先・実習先の不足。	(女性、30代、児童相談員)
○ 生活態度の乱れ(門限を守らない、異性との交遊に夢中になる、飲酒、喫煙、朝起きられない等)が目立つようになると、本人がJEホームの規正正しい生活に耐えられなくなって出ていってしまうため、JEホームに定着するケースが結果的に少なくなってしまう 目標額を貯めたら退所程度の短期目標にした方が退所後フォローをうけながら関係が長続きするのかもしれない	(女性、50代、児童心理司)
○ 性犯罪等増えている又、暴力被害者が増えているため、地域性の問題で安全が確保しにくく、検討時に外さなくては行けなくなる時がある又、マンパワーが必要となるかもしれませんが、集団生活が難しい児童も増えている。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 都道府県やその場所のJEによって特色がある(課題)	
○ 就労がメイン ・就学は全くない ・就労OK など	(女性、20代、児童福祉司)
○ 職員のメンタルケアも課題ではないでしょうか。ベテランの人ばかりではないと思うので、つぶれず長く安定して…を望みます。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 子どもの多様なニーズに応えられるような、柔軟で臨機な対応をしていただくと助かります。	(男性、50代、管理職(課長、係長))
○ JEホームの運営(予算的な部分)についての不安定さが課題としてあげられることがある。今回の調査等ふまえてこれまで以上に国や県に運営面での強化を図る必要があると思います。	(男性、50代、児童福祉司)
○ 長く勤務できる職員の確保。	(女性、40代、児童心理司)
○ 安定した入所者数の確保が難しく思うので、運営面で大丈夫なのかと心配になる時があった。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 職員配置基準が増えることが望ましい。	(女性、40代、児童心理司)
○ 数を増やす。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ (13) に似てますが、児童養護や自立支援の施設との連携を蜜にし退所児童の支援を検討できているか、確認したかったです。	(男性、50代、児童福祉司)
○ 働く力のないケースをお願いしたいため、一緒に動いてもらったり、実習的な就労体験をやってもらいたいケースが多く、さらに家事やお金の計算など自立生活のためのプログラムがもっとあると使いやすい。	(男性、50代、児童心理司)
○ ・食物アレルギーに対する柔軟な対応が可能か。	(男性、40代、その他)
○ ・立地条件も今後大切になってくると思います。	(男性、40代、その他)
○ 入所打診から入所までの期間の短縮化、面接、見学、体験宿泊など、順を追う必要はあるが、時間がかかってしまうことがある。	(男性、無回答、管理職(課長、係長))

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 財力が低い。寄付と善意にたよっている面が大きい。人件費も少ない。若いスタッフを確保しにくい。支援者の高齢化、カンファレンスの時間が深夜になる。(21～22時になることも)	(女性、40代、児童心理司)
○ ・第1種社会福祉事業として運営出来るよう、法改正。	(男性、30代、その他)
○ 職員体制の充実	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 多様な児童の受入れと柔軟な運営	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 障がいがあるいろいろな形でクローズアップされているが、障がいを持っている児の受入対応ということは大きな課題になってくのではないかなと思う。その上で障がいに対する専門性を高めることなども必要になってくると思う。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 大学、専門通学の子、児童養護で高校年齢で退所になった子の住まいの場としてのJEに期待している	(女性、40代、児童福祉司)
○ 就労先と直接連絡を取り合わないため、就労先での勤務状況や人間関係、他就労継続にあたり、必要な就労先との連携、調整ができないこと	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 引きこもりや精神的な課題、社会性の課題など就労に至らない未熟なケース、他の社会資源では対応できないケースが自立援助ホームに行き着く…といった場合にどこまで受入が可能でしょうか？本来の自立支援(就労自立)とは違った形の対応をお願いせざるを得ないケースが増えてくる(いる)と思われま。	(女性、40代、児童心理司)
○ 療育手帳、etcが取れず他の支援が得られないケースetcについて、自立まで時間(コスト)がかりすぎますがホームの経営面から考えると受入は難しいでしょうか？	(男性、50代、児童福祉司)
○ 地域、立地条件、通学・通勤しやすい場所	(男性、60代以上、児童相談員)
○ こめんなさい。現状を理解していないので、課題は書けません。	(女性、40代、その他)
○ “施設不適合になった高校生年齢の児童が行き先がなく困っている。”というケースは多いと感じます。自立できるまでの数年間、個々の課題をクリアしつつ、JEホームで生活できるような仕組みを、もっと広げていっていただけたらと思います。	(女性、50代、児童相談員)
○ 児童相談所との連携を取る姿勢を見せてくれる時はいいが、JEホームが主導を取ろうとすることもあり、折り合いがつかなくなる。JEホームの職員によって言うことが違うなどがある。逆にホーム長がしっかり窓口対応をすると決まっていると伝えない。	(女性、50代、児童相談員)
○ 年長児(高校生年齢)の家庭、施設不適合の児童が自立していく上でJEホームは、重要な役割であると思います。ニーズは多いのですが、枠が少ない、地理的要因のため通学や就労の地区が限定されるといった課題があるのかんじます。個別の支援は大変よくしていただけてると思っています。小規模でよいので、増設されると子どもの自立の選択肢も広がると思います	(女性、50代、児童福祉司)
○ 男女別に複数のJEホームがあって、利用者にあった方を選ぶこと必要。一時保護機能を併せもって、就労するまでの間、無料で利用できるようにする。(横浜市中央児相の一時保護所「はばたき」の一部機能のような)	(男性、60代以上、児童福祉司)
○ 地域による設置数の差がかなりあること、神奈川だと横浜に多くホームがあるようですが、県児相では、利用をなかなかできないこと。また、横浜にあるホームを見ると男子のものばかりであるなど、施設数の男女差は今後課題となりうることもかもしれません。	(女性、30代、児童相談員)
○ 施設でなく事業であるがために、運営面で支障を来すことはないでしょうか。運営者(管理者)の御苦労が多いのではと拝察します。	(男性、50代、児童福祉司)
○ 関係機関だけでなく、地域の理解を深める意味でも啓発活動は必要と思われま。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 多くの社会的養護施設に今、共通していると思われるが、発達障害で高年数児の社会的適応を支援する機関、機能、期間が足りないと感じている。自立援助ホームというよりは、先に述べた課題への対応が今後求められると考える。	(男性、40代、管理職(課長、係長))
○ 利用料は高額ではないが、より低額で利用できるよう扶助を行政に働きかけていっていただきたい。	(男性、30代、児童心理司)
○ 児童養護施設との連携	(女性、30代、児童心理司)
○ 医療機関との連携	(女性、30代、児童心理司)
○ 就学と就労の両立	(女性、30代、児童心理司)
○ 積極的な就労支援(現状見守っているだけに見える) 就学に限らない自立に向けた支援。	(女性、30代、児童心理司)
○ 非行児童の受入先を探す際、受入れてくれる自立援助ホームを探すことにとどまらず、しかし、受入側としても他児がいる中、非行児童を受け入れることのリスクも良く理解できるので、非行児童の受け入れの経験がある施設からの情報発信やスキルの共有等できると良いと感じた。また、自立援助ホームは、ホームごとの職員の質やホームの力に差が大きすぎる。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 財源。地域にひらかれた居場所となること。支援をうける力のない子、ニーズのない子につながる人としての魅力。就労と居場所がくっついているソーシャルスキル、社会参加の訓練ができること。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 多様なニーズを持って入所希望する児がいると思われるので柔軟な対応を検討いただくこと。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 児童相談所とは別にJEホーム児童支援に特化した機関あるいは児相内の部署が必要だと思えます。児童支援とはちがった自立支援、就労支援の専門性が必要だし、より丁寧な支援が必要だからです。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 国や自治体からの補助金などで職員の配置などが必要かと思えます	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ そのJEによっての違いがあると思えます。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 地域によって職員によって連携のしやすさ、ケースの適応もちがってくると思いますが、利用したいタイミングで使えないとご縁がつかりにくい、知っているごく限られた範囲での回答です。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 川崎の自立援助ホームは所属学校との連携や親対応を児相に任せている。就学も前提に支援頂けると、児相の行き先として幅も広がる。自立のために就学が必要という価値観を認められると支援も変わってくるのでは(通学希望という理由で断られること多い)	(女性、30代、児童福祉司)
○ (具体的なことになってしまいますが) 職員間で対応が統一していないこと	(女性、20代、児童心理司)
○ 高年齢児で新規に養護性が発生したケースは児童養護施設よりも自立援助ホームを検討したいが基本的な生活習慣の獲得、それに向けた支援は手厚くない。また、数が少ないため、遠方のホームになると高校(基本転校できないので)通学と自立に向けた就労、アルバイトの両立が厳しい。生保を受給してしまうと自立が難しい。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 特にございません。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 入所時の児童の動機づけ	(女性、30代、児童心理司)
○ JEホームの力量の差がはっきりしているので、全体で情報共有して、専門性を全体でひき上げていくと良いと思う	(女性、40代、児童心理司)
○ ・入所児が宗教を押しつけられていると感じてしまっているところ	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・施設支援不足(市の)	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・人材育成不足(支援について学んでいないのか)	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・経営主体が専門的ではないこと。	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・公営もしくは、社会福祉に精通した団体・法人による。システムがしっかりとした設置運営が必要。	(男性、30代、児童福祉司)
○ なし	(男性、30代、児童福祉司)

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ J Eホームを使うケースはかなりの課題・問題を抱えた子ども、家族です、より専門的に関わる必要があると思いますし、援助技術が必要ですので、とても難しい関わりです。J Eホームさんの人材育成が欠かせないと考えます	(女性、30代、児童相談員)
○ 所轄内J E今年度新設。新設の場合は経験がもちろんない為、トラブルが多く、経験者の採用等が課題と感じた	(男性、40代、児童福祉司)
○ 特になし	(男性、30代、児童福祉司)
○ 特になし	(男性、40代、児童福祉司)
○ 自治体に必要性を理解してもらうことが必要だと思います	(女性、40代、児童心理司)
○ 特になし	(女性、40代、児童相談員)
○ 自立を支援する施設ではあるが、単独での自立が難しい児童の利用を検討することが多いため、就労を目指すにしても、多くの課題(ハードル)を抱えている場合が多い。特に対人関係や生活スキルに不足があることが多く、“多くのことを一度にこなすことはむずかしい”タイプの児であることが多い。そのため、就労支援だけでなく、生活全般のスキルアップを支援をする必要があり、個別の状態に合わせた支援を考える必要がある。	(女性、40代、児童心理司)
○ 特になし	(男性、30代、児童福祉司)

●自立援助ホームの課題について、記載項目以外の課題や課題解決に向けた自由記述の意見では、

【性的トラブル・暴力トラブルへの対応】

【幅の広い受入体制】

【職員の計画的な養成】

【ホーム間の情報共有と専門性の相互引き上げ】

【受入の柔軟性】

【ハード面の工夫】

【心理職の配置】

【経済的・費用面の改善】

【増加する発達障害系専門ホーム】

【就労に繋がる研修先・実習先の不足】

【J Eホームの安定運営を実現する予算】

【自立生活のためのプログラム】

【地理的要因で通学・就労地区が限られるため、小規模でも増やすこと】

【地域理解のための啓蒙活動】

【J Eホーム児童支援：援助技術等の専門性が必要】

など様々な意見が寄せられている。

## 6) 自立援助ホームの周知に関する児童相談所内での周知方法や周知に必要な事項等

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 児相内外での研修、パンフレットなどあればいいなと思います。対象になりやすいケース、入所後の支援についても知りたいです。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 受け皿が少なく検討の余地が無いことが多く、担当ケースが少ないため自立援助ホームのことを知らない者も多い。自分自身も担当ケースが利用することで初めて分かった部分も大きい。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 年に1回程度、自立援助ホームを見学できる機会を設定して頂けるとありがたいです。自分の担当ケースがいないと、伺わせて頂く機会もつくりにくいので、日にちを決めて児相と自立援助ホームの間で調整できるとよいと思います。もちろん生活しているお子さんがいるので、時間の配慮などは必要だと思いますが。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 児童相談所内ではかなり周知できていると思いますが、連絡会を通じてそれぞれの状況の共有化がはかれるとよいと考えます。	(男性、30代、管理職(課長、係長))
○ JEホームを利用した当事者の若者がJEを利用した良さや課題と思うことを話して下さる体験談を聞いてみたいです。	(女性、50代、児童心理司)
○ 障害児担当なのでJEホームと関わることはありません。申し訳ありません。	(女性、50代、児童心理司)
○ ・利用手続き ・入所前の打診の流れ(必要書類)をもっと詳しく、各施設でなるべく統一してほしい	(女性、無回答、児童福祉司)
○ ホーム毎に特色があり、受入児童のタイプもちがうため、概要を公的な形で知ることができると良いと思う	(女性、40代、児童心理司)
○ 自立援助ホームについての研修会を行う	(女性、40代、児童心理司)
○ 新任職員には見学の機会を必ずもつうける。	(女性、50代、児童相談員)
○ 具体的な利用方法、各自立援助ホームの特色を考うる就労先	(男性、20代、児童福祉司)
○ 児相内で事例報告があってもいいですね。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 様々な事例があると思うので、何かの機会に事例発表や検討する場があると、より利用しやすくなるのではないかと思います。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 現在は虐待の初期対応部署にいるため、実際に直接ホームに支援したケースはいません。このケースが将来利用に幸るのか?と考えることはありました。	(女性、40代、その他)
○ ホームごとの特色など知りたい	(男性、30代、管理職(課長、係長))
○ 特に周知不足の印象はありません。	(女性、無回答、児童福祉司)
○ 連絡会の実施等をし、お互いの役割や支援の現状を共有する機会をもつ。	(女性、30代、児童福祉司)
○ ・係会議内での研修	(女性、30代、児童福祉司)
○ 是非、直接、理解を深められる機会があるといい。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 自立援助ホームの存在自体は周知されていると思います。あえて挙げれば(パンフレット配布、児相勤務職員向けの研修開催	(女性、40代、児童福祉司)
○ 研修(短時間でも)があると良いと思います。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 顔の見える関係	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 自立援助ホームの職員さんや施設長さんから研修等でお話をきく機会があるとよいと思います	(女性、40代、児童心理司)
○ 研修会(映像資料)、事例検討会。	(女性、30代、児童福祉司)
○ 部会で説明して下さるのは、とても良いきっかけとなります。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 児童がもっと利用しても良い、行きやすいと感じられるようになるために、見学などできると良い。(生活の場所なので限界はあると思うが...)	(男性、40代、児童相談員)
○ ホームの見学会、入所経験ケースの体験談	(男性、50代、管理職(課長、係長))
○ 子どもたちが困った時に頼るのは、場所ではなく人だと思います。まず何をしてくれて、どんな時に力になってくれるのかをアピールすべきだと思います。	(女性、30代、児童福祉司)
○ JEホームの見学、紹介ビデオをみる。利用者の生のコメントを紹介等	(女性、50代、児童心理司)
○ 福祉司の勤務年数が短く、担当することが少ない。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 毎年伝える場や窓口(児相側)を明確にしておいたら良いのかもかもしれません。(こちらの問題でスマイセン)	(女性、40代、児童福祉司)
○ JEの様子・入所までのやりとりについて講習を行う。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 児相職員の見学ツアー	
○ 福祉司部会等で周知いただいています。新任福祉司がどんどん入ってくる現在の児相の状況を考えると、継続的なアナウンスが必要なのかなと思います。施設のお子さんが利用する可能性を考えると、施設がより有効的にJEホームを使うことを自立支援計画に盛り込み、児相にアピールしてくれたり、ということも連携の1つの方法かもしれません。施設の人も有効な利用方法の周知が必要なのかなと思います。	(女性、40代、児童福祉司)
○ 存在は把握しているが、身体への支援について(できること、できないこと)の認識はできていない。子どもをお願いしてなくても、実際を知れる方法があるとよい。	(女性、40代、児童福祉司)
○ これまでのように、児相との連絡会や部会等で周知する機会を継続してほしいと思います。	(男性、50代、児童福祉司)
○ 質問に具体的にイメージできないものが多く、これまで、関わりが少なく、あまりよく知らないのだと思いました	(女性、40代、児童心理司)
○ 特になし。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 事例を出していく必要がある(児相ケースで)	(男性、50代、児童福祉司)
○ 自立援助ホームスタッフとの交流で、課題意識の共有が必要。一時ホコ所スタッフは若手も多く、自立援助ホームとは何かを知らないことも多い。研修は必要だと思います。	(男性、40代、その他)
○ JEホームの機能は十分に認知されていると思われる。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 福祉司以外だと、なじみがないので、研修等で周知していくことが必要かと。直接、自立援助ホームの方に来てもらって。	(男性、40代、児童福祉司)
○ ・パンフレット ・ポスターなど ○ 配布して本人や保護者にみせて説明しやすいものを十分な量 配布すること。それぞれのJEの特徴をアピールしているリーフレットをつくることいいと思います。	(女性、40代、児童心理司)
○ 自立援助ホームについての、研修の開催。(自立援助ホームを利用するにあたって、何が必要か?福祉司への要望を伝える場としての研修)	(男性、30代、その他)
○ 自立援助ホームで受けられる具体的な支援(例えばこんなこと...とか)	(女性、50代、その他)
○ 所内で自立援助ホームの話は時々耳にするが、どのようなところまでどのような支援を行なっているのかなど、関わりがないので全くといっていいほど知らなかつたりするので、自立援助ホームの職員から話を聞く機会や交流ができる場がもう少しあると周知できるのではないかと思います。	(男性、無回答、児童福祉司)
○ 使った人がアピールしていくといい。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 定員枠も少ないため、活用しないCWも多いので、まずは、自立援助ホームがどんなところか見学に行ったり機能を知ったりすることが必要では。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ どういったケースに対応できるのか、どのような支援が可能なか教えて頂けると助かると思います	(女性、40代、児童心理司)
○ 利用できる枠、開きがないと具体的な生活の場所として提示できない、期待させておいて利用できませんという状況になるため	(男性、50代、児童福祉司)
○ 児相の援助方針会議日にスタッフに来てもらい、20~30分の自立援助ホームの紹介をしてもらえると助かります。今後ずっと利用したいケースはあるはずですから。	(男性、60代以上、児童相談員)
○ 入所後のアプローチ等内部機能が養護施設より知られていないと思う15~19あたりの利用希望者は潜在的には多いと思います	(女性、50代、児童心理司)

記述内容	(性別/年代/担当職種)
○ 自立援助ホームへの委託措置をした事のないCWにとっては、なかなか身近に感じる事のない施設であるが、その存在意義は大きい。CW全体に対する研修や、見学会等を通して、周知する機会が必要と思う。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 自立援助ホームの活用は、いろいろと気遣いや配慮が要るとわれ、単にその機能を示すだけの情報が伝わると、地域から過剰な期待を招き活用し辛くなる。慎重な情報提供が必要	(男性、40代、児童相談員)
○ 児相内では、周知されたい。知らないとしたら(個人として)勉強不足。	(男性、60代以上、児童福祉司)
○ 特になし	(男性、60代以上、管理職(課長、係長))
○ 一定の条件を満たさなければ入居できない、というイメージが大変強く相談をあきらめたり、ケースワーク上の選択肢から除いてしまう。自立援助ホームの可能性を広げて行くのであれば、一時保護で様々なケースに対応してみるのはいかがでしょうか。周知が十分にではないとの意識はありません。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 事業説明会のようなものがあれば参加させていただきたいです。	(女性、20代、児童心理司)
○ ホームの職員さんが会議等に周知に来て下さると効率よく伝わると思います。	(女性、40代、児童福祉司)
○ パンフレットの作成。	(男性、40代、児童福祉司)
○ 説明会の開催。	(女性、30代、児童心理司)
○ ・どういった支援方針でホームを運営しているか。 ・過去の受け入れ児童の種別(男女・障害の有無・非行児童の受入可否etc.)	(男性、30代、児童心理司)
○ JEホームの見学、説明、研修等	(男性、30代、児童福祉司)
○ 周知はされている。	(女性、30代、児童心理司)
○ 委託ケースが増えれば自然と周知される。 リストのようなもの(条件・特徴など)が共通であるとうい。	(女性、30代、児童心理司)
○ ・児相職員との交流の機会を定期的に設ける ・児相の会議などに来て頂き、御説明を願う	(男性、60代以上、児童福祉司)
○ パンフレットを各児相に配布・回覧	(女性、30代、児童心理司)
○ 入所を断られる。対象じゃないといったことしか経験がないのですが、どういう子ならうけいれられるのか、どういう支援が可能なのか、つよみを周知してほしいなと思います。	(女性、40代、児童福祉司)
○ ・会議で実際に利用しているケースの情報共有。 ・空き情報の共有。	(女性、20代、児童福祉司)
○ 所内では周知されている。	(女性、40代、管理職(課長、係長))
○ 実際に利用、関わってみてわかることも多いと思います。 関わってながら知らないことも多いと思います。	(女性、50代、管理職(課長、係長))
○ 児相とJEホームとの連絡会等があれば、周知されると思う。	(男性、40代、管理職(課長、係長))
○ 所内において自立援助ホームの必要性、機能は十分に周知されている。本来は広く市民に周知、啓発すべきだが受け皿がない状況ではどうしようもない。	(男性、30代、管理職(課長、係長))
○ シェルターの利用ケースもあるため、公共機関に目につかれるポスター等で等は不適と思う。	(女性、30代、児童福祉司)
○ ・自主援助ホームについての説明会のようなものを各児相に行き実施 ・利用したことのあるCWが他のCWに伝えていく	(女性、20代、児童心理司)
○ 所内での周知は不要と思われる。	(男性、40代、児童福祉司)
○ ケース数は少ないので研修や行事への参加等でお互いのことを知っていききたい	(女性、40代、児童福祉司)
○ ・パンフレット等配布 ・研修の実施	(女性、30代、児童福祉司)
○ パンフレットを常置するなど。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 研修などで各施設の特徴や課題などをまとめていく。	(女性、20代、その他)
○ 研修を行う	(女性、30代、児童心理司)
○ 定期的な研修	(女性、20代、児童心理司)
○ JEホームの支援について多様性があるので、事例を通じて周知して、こんな支援があると分かってもらおうと思う	(女性、40代、児童心理司)
○ ・自立援助ホームの方を講師とした研修の場があるとよい →担当ケースが利用することになって詳細がわかったの。	(女性、30代、児童心理司)
○ 分からない所は未記入としました	(男性、30代、児童福祉司)
○ ・ホームのHPがなく、場所や連絡先が調べづらい	(男性、30代、児童福祉司)
○ 研修や施設見学等の機会があると良い。	(女性、20代、児童福祉司)
○ JEホームがかかわるケースを担当したことがないため、JEホームの機能や支援状況、児相との支援課題など、知る機会があるとありがたいです。	(男性、30代、児童相談員)
○ 自立援助ホームと関わる機会の少ない班とも交流がもてると良い。例えば、勉強会等を通してお互いの業務を知れるとういと思う。	(女性、30代、児童相談員)
○ 自立援助ホーム側の受け入れがしっかりすれば、自然と利用は促進されると思う。	(男性、30代、児童福祉司)
○ 自立援助ホームがどんな子が対象で、どういう支援ができるかわかりにくい面もあるので、児相で研修やPRをしてけるとイメージがわかりやすいと思う。卒所した児童がどんな経過をたどったか説明をしてけるとたすかります。	(男性、40代、児童心理司)
○ なし	(男性、30代、児童福祉司)
○ 今年度は新設JEが出来き施設見学等を実施周知出来た印象、それまでは措置経験者のみで支援も手探り、情報共有もあまり出来ていなかった	(男性、40代、児童福祉司)
○ 受け入れる児童が限定的な為、ケースを持たないと関わらない	(男性、30代、児童福祉司)
○ 児相相談所との連携を求める資源ということならばもっと使いやすい(相談しやすい)施設として、もっと間口を広げてほしい。	(男性、40代、児童福祉司)
○ JE職員による研修(児相職員に対して)等の実施	(男性、30代、児童福祉司)
○ 援助方針会議での利用者の情報共有、自立援助ホームの見学等。	(男性、30代、児童福祉司)

●自立援助ホームの周知方法などに関する児童相談所からの意見では、

【児相内外での研修会や事例報告会】

【パンフレット・ポスター作成】

【自立援助ホームの見学会の開催】

【自立援助ホームの職員・管理者から話を聞く機会】

【連絡会を通じた情報の共有・事例検討会】

【利用当事者の体験談を聞く機会】

【新任向けの各種アナウンス】

【ホームの空き状況が分る仕組作り】など

など様々な意見が寄せられているが、所内での周知は不要との意見もあった。

## Ⅱ. まとめ

### 1. 神奈川県内の児童相談所の回答内容

#### 1) 回答者(385名)の特徴

##### ①回答者の属性

- 性別は6割が女性。
- 年齢層では30代、40代がともに約3割、20代、50代がそれぞれ約15%。
- 担当職種では【児童福祉司】が52.2%と半数以上を占めており、【児童心理司】が21.6%で続いている。その他の記述回答では【相談調査員】【保健師】【児童指導員】等が見られた
- 勤続年数では、現勤務先で【1~2年】44.2%、【3~5年】が33.5%の順となった。通算の勤続年数では、【1~2年】が24.9%とやや高めになったが、【3~5年】が23.1%、【10年以上】が22.6%、【6~10年】が22.1%と、各属性ごとの比率に大きな差は無くバランス良く配置されている様子が伺える。

#### 2) 自立援助ホームのニーズに関する項目

##### ①自立援助ホームに関する概要

- 認知度では【ある】が47.0%、【かなりある】が45.5%と、全体の92.5%は明確に聞いたことがあると回答している。
- 委託措置の検討有無については、【ある】の28.6%、【かなりある】の11.9%、【ややある】の9.4%を合計すると49.9%になることから、約半数の方々は検討した経験があるようだ。
- 在宅ケースでの必要性については、【ある】が28.8%、【ややある】が21.3%、【かなりある】が8.1%で約6割が必要性を感じたことがある状況。
- 実際に連携したケースの有無では、【まったくない】が27.0%、【ない】が26.0%と半数を超えていることや、現状の連携状況でも【まったくない】【ない】の合算値が78.5%に上っており、必要性を感じ検討はするが連携に至らなかったケースの多さが伺える。
- 委託措置を検討したケース数について聞いたところ、【2件】が最多で14.8%、【1件】が14.3%、【3件】が11.2%、【5件】が6.2%で続いている。その中で、現在、委託措置中の担当ケースでは、【1件】が11.9%、【2件】が1.3%と、全体の13.2%に留まっている。
- 実際に委託措置をしたケースにおける直前の生活場所については、【一時保護所】が74件、【実父もしくは実母がいる家庭】が63件、【児童養護施設】が56件、と共に15%を超えている。その他の記述回答では、【少年院】や【医療機関】などの回答があった。
- 所轄内において増やしていく必要性については、男子・女子ホームともに、【1箇所】で約40%、【2箇所】で約20%、と高いニーズが確認出来る。混合ホームは逆に7割の回答者が必要性を感じていない状況である。
- 多様性対応型においては、【就学型】で71.4%が、【障害児対応型】では65.2%が、【非行児対応型】では57.7%が、一箇所以上の増設を希望してる状況である。
- 所轄外への委託措置ケース数では、【1箇所】で県内が37件、県外で22件。【2箇所】では、県内で2件、県外で4件、【3箇所】では県内で1件、県外で2件となっている。

- ・所轄外へ委託措置した理由については、【所轄内の空きがない】が39件と最も多く、【所轄内に適したホームがない】が24件、【交友関係を断ち切るため】が9件で続いている。その他の記述回答では、【弁護士の調整】【所轄内にJEホームが無い】など。
- ・過去に委託を検討したが実施に至らなかったケースの記述回答では、【受入可能なホームが無かった】【本人の意向で至らなかった】【障害に関わる事情】などの意見が寄せられている。

## ②自立援助ホームの機能について（現状と今後）

\*以下「ややあてはまる」「あてはまる」「かなりあてはまる」を【肯定側】、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」を【否定側】と表現した。一覧集計は以下の通り。

項目	＜現在機能＞		＜今後期待＞	
	肯定側	否定側	肯定側	否定側
高年齢児の生活拠点・居場所	94.3%	2.6%	96.9%	0.8%
基本的な生活習慣の獲得	84.4%	12.0%	91.9%	5.4%
社会的経験の獲得	92.7%	3.4%	96.0%	1.0%
経済的自立準備	94.0%	2.3%	96.3%	1.3%
未就学児の就労支援	88.3%	7.8%	94.0%	3.4%
就労後の定着支援	88.0%	8.0%	95.9%	2.1%
義務教育の再学習を目的とした学習支援	45.1%	50.1%	70.1%	27.0%
将来的な進学を目的とした学習支援	38.5%	57.1%	67.7%	29.1%
大学や専門学校等への進学する児童の自立支援	48.9%	46.4%	82.9%	14.1%
日常生活上の相談支援	89.9%	6.5%	94.8%	2.4%
心理的・医療的なケア	53.5%	42.3%	74.8%	22.6%
障害児に対する支援	39.9%	56.1%	67.3%	30.2%
非行児に対する支援・矯正	49.3%	46.7%	72.7%	24.3%
家庭（家族）支援	36.1%	59.7%	58.4%	38.7%
親権者の代替養育	61.6%	34.3%	74.6%	22.6%
一時保護所の補充機能	36.4%	59.5%	67.1%	30.4%
DVや虐待に対する避難場所	51.1%	44.4%	71.2%	25.7%
当該児の一時的なレスパイト	37.6%	57.9%	59.2%	37.9%
親（家族）の一時的なレスパイト	27.2%	68.8%	45.8%	51.7%
アフターケア	79.4%	16.7%	94.3%	3.2%
要保護児童等のニーズの掘起し	30.7%	64.3%	44.4%	52.2%
地域住民に向けた家庭相談支援	25.2%	69.7%	41.2%	55.6%
研修やイベントの企画・運営	31.0%	63.7%	46.0%	50.4%
他の社会資源との連携・連絡調整	58.5%	36.9%	77.6%	19.5%
児童相談所の補充機能	37.9%	56.6%	51.4%	44.1%
柔軟な受け皿・活用	64.1%	31.1%	87.8%	9.2%

- ・高年齢児の生活拠点・居場所については、＜現在機能＞でも【肯定側】が94.3%と高いが、＜今後期待＞では96.9%まで増加している。
- ・基本的な生活習慣の獲得においても、＜現在機能＞【肯定側】が84.4%、＜今後期待＞では、91.9%まで増加している。
- ・社会的経験の獲得では、＜現在機能＞でも【あてはまる】が50%強、＜今後期待＞では更に増加している。【かなりあてはまる】は＜今後期待＞で10ポイント以上の増加となった。
- ・経済的自立準備においても＜今後期待＞の【かなりあてはまる】が17ポイントを超える増加となった。
- ・未就学児の就労支援では、【かなりあてはまる】が＜今後期待＞で約15ポイントの増加。
- ・就労後の定着支援も15ポイント以上の増加となっている。
- ・義務教育の再学習を目的とした学習支援では、＜現在機能＞【否定側】が50.1%となったが、＜今後期待＞では27.0%まで低下し、＜今後期待＞においては、【あてはまる】【かなりあてはまる】が大きく増加している。
- ・将来的な進学を目的とした学習支援においても、前項と同様な傾向で、＜現在機能＞は【否定側】が57.1%と半数を超えているが、＜今後期待＞では【肯定側】が67.7%まで増加している。

- 大学や専門学校等への進学する児童の自立支援では、〈現在機能〉【あまりあてはまらない】が3割以上だが、〈今後期待〉では【あてはまる】が約4割まで増加している。
- 日常生活上の相談支援では、〈今後期待〉の【かなりあてはまる】が10ポイント以上の増加となった。
- 心理的・医療的なケアでは、【ややあてはまる】を折り返しとして、〈現在機能〉と〈今後期待〉が正反対になっており、〈今後期待〉の大きさが伺える。
- 障害児に対する支援では、〈現在機能〉【あまりあてはまらない】が35.8%で最も高くなっているが、〈今後期待〉においては【あてはまる】が18ポイントも増加している。
- 非行児に対する支援・矯正でも障害児支援同様に、〈現在機能〉【あまりあてはまらない】が高くなっているが、〈今後の期待〉においては【あてはまる】が約15ポイントの増加となっている。
- 家庭（家族）支援では、〈現在機能〉【あまりあてはまらない】が35.8%と高い。〈今後期待〉では【肯定側】が増加しているものの【否定側】が約4割と減少幅が少ない。
- 親権者の代替養育では、〈今後期待〉で【あてはまる】が10ポイントの増加となっている。
- 一時保護所の補完機能では、〈現在機能〉【否定側】が約6割に上るが、〈今後期待〉では【肯定側】が約7割となり、期待の大きさが伺える。
- DVや虐待に対する避難場所では、〈今後期待〉【あてはまる】が14ポイント上昇している。
- 当該児の一時的なレスパイトでは、〈現在機能〉【否定側】が57.9%だが、〈今後期待〉では37.8%まで低下している。
- 親（家族）の一時的なレスパイトでは、〈現在機能〉でも【否定側】が68.8%、〈今後期待〉でも半数を超えている。
- アフターケアでも〈現在機能〉【肯定側】が約8割、〈今後期待〉では9割を超えている。
- 要保護児童等のニーズの掘起しでは、〈現在機能〉【否定側】が64.3%で、〈今後期待〉でも半数を超えているため、期待感が薄いと言える。
- 地域住民に向けた家庭相談支援も同様の傾向で、〈現在機能〉【否定側】が69.7%、〈今後期待〉でも55.6%が【否定側】となっている。
- 研修やイベントの企画・運営では、〈現在機能〉【否定側】が63.7%、〈今後期待〉でも【否定側】が50.4%となった。
- 他の社会資源との連携・連絡調整では、〈現在機能〉【肯定側】が59.5%、〈今後期待〉では、【あてはまる】が15ポイントの上昇となった。
- 児童相談所の補完機能では、〈現在機能〉【否定側】が56.6%、〈今後期待〉では【肯定側】が51.4%となった。
- 柔軟な受け皿・活用では、〈現在機能〉【肯定側】が64.1%で高く、〈今後期待〉では、87.8%まで増加しており、特に【かなりあてはまる】が20ポイント上昇した。

### ③自立援助ホームの機能について、記載項目以外に今後期待する機能等

- 掲載以外に今後期待する機能では、【高齢児や障害児への対応強化】や【児童が社会に出た後の継続支援】、【進学出来なかった児童のための生活訓練】、【多様化するニーズへの対応】などのほか、【長期利用による新規受入不足の問題】や【親代わりに相談できる機関】、【就労と居場所機能・体制の整備】など、自立援助ホームを増やしていくニーズなどが寄せられている。

#### ④自立援助ホームの課題について

- ・自立援助ホームの課題では、【連携不足】や【社会連携不足】で「あてはまらない」が半数を超えており、連携については、あまり問題視されていないようだ。その他の課題については、いずれも「あてはまる」が多くなっている。特に【不認知】【設置数不足】【マンパワー不足】【障害児対応】【非行児対応】【利用料】【アフターケア】は、6割を超えているため、問題を感じているとともに、〈改善ニーズ〉となっている状況である。

#### ⑤自立援助ホームの課題について、記載項目以外の課題や解決するために必要な事項等

掲載以外の課題や課題解決に向けた意見では、

- ・【性的トラブル・暴力トラブルへの対応】
  - ・【幅の広い受入体制】
  - ・【職員の計画的な養成】
  - ・【ホーム間の情報共有と専門性の相互引き上げ】
  - ・【受入の柔軟性】
  - ・【ハード面の工夫】
  - ・【心理職の配置】
  - ・【経済的・費用面の改善】
  - ・【増加する発達障害系専門ホーム】
  - ・【就労に繋がる研修先・実習先の不足】
  - ・【J E ホームの安定運営を実現する予算】
  - ・【自立生活のためのプログラム】
  - ・【地理的要因で通学・就労地区に限られるため、小規模でも増やすこと】
  - ・【地域理解のための啓蒙活動】
  - ・【J E ホーム児童支援：援助技術等の専門性が必要】
- など様々な意見が寄せられている。

#### ⑥自立援助ホームの周知に関する児童相談所での周知方法や周知に必要な事項等

自立援助ホームの周知方法などに関する意見では、

- ・【児相内外の研修や事例報告会】
  - ・【パンフレット・ポスター作成】
  - ・【自立援助ホームの見学会の開催】
  - ・【自立援助ホームの職員・管理者から話を聞く機会】
  - ・【連絡会を通じた情報の共有・事例検討会】
  - ・【利用当事者の体験談を聞く機会】
  - ・【新任向けの各種アナウンス】
  - ・【ホームの空き状況が分る仕組作り】
- など様々な意見が寄せられているが、所内での周知は不要との意見もあった。

## Ⅲ. 添付資料

### 1. アンケート用紙の体裁

\*次頁より添付

問1 性別と年齢についてお尋ねします。

<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性	/	年齢__代
-----------------------------	-----------------------------	---	-------

問2 担当している職種についてお尋ねします。

<input type="checkbox"/> 児童福祉司	<input type="checkbox"/> 児童心理司	<input type="checkbox"/> 児童相談員
<input type="checkbox"/> 管理職(課長、係長)	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

問3 勤務年数についてお尋ねします。 ※何年目かをご記入ください。(4月からの勤務は1年目です)

現在の児童相談所での勤務年数__年	児童相談所での通算勤務年数__年
-------------------	------------------

問4 自立援助ホームに関することをお尋ねします。

該当欄(番号)を丸で囲み、空白欄には直接ご記入ください。

※以下自立援助ホームをJEホームと記載し、当アンケートではシェルターはJEホームに含みません。

※質問の「担当ケース」は直接関わるケースのことで、管理職の方の管理・監督ケースは含みません。

	まったくない	ない	あまりない	ややある	ある	かなりある
(1)JEホームの名称を聞いたことがありますか	1	2	3	4	5	6
(2)JEホームへの委託措置を検討した担当ケースはありますか	1	2	3	4	5	6
(3)在宅ケースでJEホームの入所が必要だと感じた担当ケースはありますか	1	2	3	4	5	6
(4)過去にJEホームと連携した担当ケースはありますか	1	2	3	4	5	6
(5)現在JEホームと連携している担当ケースはありますか	1	2	3	4	5	6
(6)JEホームへの委託措置を検討した担当ケースは今までどれくらいありますか	__ケース					
(7)現在JEホームに委託措置中の担当ケースはありますか	__ケース					
(8)JEホームへの委託措置を実施した担当ケースがある方は、当該児童がJEホームへ入所する直前に生活していた場所を教えてください	1.児童養護施設 2.児童心理治療施設 3.児童自立支援施設 4.ファミリーホーム 5.シェルター 6.一時保護所(児童相談所) 7.里親家庭 8.実父もしくは実母がいる家庭 9.他のJEホーム 10.その他( )					
(9)JEホームを増やしていく必要性をお尋ねします(所轄内でどれくらい増設したらよいかご記入ください)	男子ホーム__箇所      女子ホーム__箇所 混合型ホーム__箇所					

(10)多様化する児童の特性を考慮し、それぞれの特性や課題に特化したJEホームの必要性をお尋ねします(所轄内でどれくらい増設したらよいかご記入ください)	就学型ホーム____箇所 障害児対応型ホーム____箇所 非行(触法)児対応型ホーム____箇所
(11)所轄外のJEホームへ割愛による委託措置をした担当ケースはありますか	所轄外の県内JEホーム____ケース 所轄外の県外JEホーム____ケース
(12)所轄外のJEホームへ割愛による委託措置をした担当ケースがある際は、その理由を教えてください	1.所轄内のJEホームに空きがない 2.所轄内には当該児の受け入れに適したJEホームがない 3.親と会ってしまうリスク回避のために、当該児が所轄自治体で生活することが適切でない 4.交友関係を断ち切るために、当該児が所轄自治体で生活することが適切でない 5. その他( )
(13)過去にJEホームの委託措置を検討して、実施に至らなかった担当ケースがある際は、その理由を教えてください(所轄の内外は問いません)	

問5 JEホームが現在果たしていると思われる機能(役割)、今後期待している機能(役割)をお尋ねします。該当欄(番号)に丸をご記入ください。

		まったくあてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	かなりあてはまる
(1)高年齢児の生活の拠点・居場所	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(2)基本的な生活習慣の獲得	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(3)社会的経験の獲得	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(4)経済的自立準備	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(5)未就労児の就労支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(6)就労後の定着支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(7)義務教育の再学習を目的とした学習支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6

(8)将来的な進学を目的とした学習支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(9)社会的養護自立支援事業にある大学や専門学校等へ進学する児童の自立支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(10)日常生活上の相談支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(11)心理的・医療的ケア	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(12)障害児に対する支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(13)非行(触法)児童に対する支援及び矯正	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(14)家庭(家族)支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(15)親権者の代替養育	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(16)一時保護所の補完機能	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(17)DVや虐待に対する避難場所	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(18)当該児にとっての一時的なレスパイト	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(19)親(家族)にとっての一時的なレスパイト	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(20)アフターケア(退所後支援)	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(21)要保護児童等のニーズの掘り起こし	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(22)地域住民に向けた家庭相談支援	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(23)研修やイベントの企画・運営	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(24)他の社会資源との連携・連絡調整	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(25)児童相談所の補完機能	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6
(26)既存の社会的養護資源では補うことができない柔軟な受け皿・活用	現在	1	2	3	4	5	6
	今後	1	2	3	4	5	6

問6 問5のJEホームが果たしていると思われる機能(役割)に関して、記載項目以外に考えられる機能や今後期待している、求められると思われる機能を自由に記述してください。

問7 JEホームの課題になるとおられることをお尋ねします。該当欄(番号)に丸をご記入ください。

	まったく あてはま らない	あてはま らない	あまり あてはま らない	やや あてはま る	あてはま る	かなり あてはま る
(1)存在がよく知られていない	1	2	3	4	5	6
(2)設置数(児童受入人数)の不足	1	2	3	4	5	6
(3)マンパワーの不足	1	2	3	4	5	6
(4)職員の支援力の不足	1	2	3	4	5	6
(5)職員の専門性の不足	1	2	3	4	5	6
(6)設備(ハード面)の不安	1	2	3	4	5	6
(7)セキュリティ面に不安がある	1	2	3	4	5	6
(8)緊密な連携がとりづらい	1	2	3	4	5	6
(9)入所年齢の制限	1	2	3	4	5	6
(10)入所の取扱いが、措置ではなく契約となること	1	2	3	4	5	6
(11)障害児の受入対応	1	2	3	4	5	6
(12)非行(触法)児童の受入対応	1	2	3	4	5	6
(13)他の社会資源と連携不足	1	2	3	4	5	6
(14)ホーム利用料の発生	1	2	3	4	5	6
(15)アフターケアの対応力	1	2	3	4	5	6

問8 問7のJEホームの課題に関して、記載項目以外に考えられる課題や課題を解決するために必要だと思われることを自由に記述してください。

問9 自立援助ホームの周知に関して、児童相談所内での周知方法や周知に必要なと思われることを自由に記述してください。

ご協力いただき有難うございました。